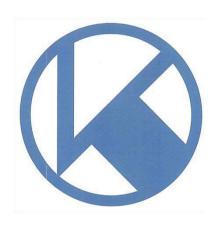
型 2024年度 郡山健康科学専門学校 講義概要



国際日本語学科

学校法人こおりやま東都学園

国際日本語学科 2024年度生 履修一覧

福祉ビジネスコース

教育内容	科目名	前期	後期
	世界の文化		•
	職業理解	•	•
基礎科目	情報処理概論		•
基礎科日	情報処理演習		•
	ビジネスマナー概論	•	
	ビジネスマナー演習	•	
	やさしい日本語	•	•
	日本語演習	•	•
専門科目	介護福祉学	•	•
(選択必修2)	介護福祉演習	•	•
	介護総合	•	•
	介護総合演習	•	•

日本語教師実践コース

教育内容	科目名	前期	後期
	世界の文化		•
	職業理解	•	•
基礎科目	情報処理概論		•
基礎符日	情報処理演習		•
	ビジネスマナー概論	•	
	ビジネスマナー演習	•	
_	日本語教育学	•	•
専門科目 (選択必修1)	教育演習 I	•	•
	教育演習 Ⅱ	•	•

[※]日本語教育学は、外部で通信及び対面教育にて履修します。

	【科目名]		【担当教員】			【科目責任者】
	世界の文	 化		渡邉みどり			渡邉
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【拉莱	形態】	【単位】
I I		1	後期	8(15)		習	1
	の概要・目的】	'	交刊	0(10)	/共		<u>'</u>
	仲間と学ぶために、	互いの文化につい ^っ	て知り、共感すること	≤で、協学する仲間と	して受け,	入れること	ができる。
学型	目標(到達目標)】					【受講	 して得られる力】
	よって文化(衣・食・	住など)に違いがあ	ることがわかり、受け	ナ入れることができる		【文册	発信力
	の生活の中で、多根						傾聴力
							柔軟性
						ık	未私证 青況把握力
						1	規律性
履修	上の注意】		主体的に	授業に参加しましょう	<u> </u>		が注 エ
吸修- 回数	授業のテーマ			の内容・目標(使用教			
		·					
1	ガイダンス		文化・生活様式とはなにか、なぜ	必要なのかが理解でき、国によって	違いがあることか	が理解できる。	グループ
2	文化・生活様式につい	アジアの文化・生活様式(衣・食・住など)についてまとめ その情報について発信できる。				グループ	
3	文化・生活様式につ	いて知ろう	アジア以外の文化 とめその情報につい	・生活様式(衣・食・信いて発信できる。	主など)に [・]	ついてま	グループ
4	日本の文化・生活様式につ	ついて体験しよう(食事編)	日本の文化・生活村 け入れられる。	様式(衣・食・住など)	について	実践で受	郊外実習
5	日本の文化・生活様式につ	ついて体験しよう(文化編)	日本の文化・生活 け入れられる。	様式(衣・食・住など)	について	実践で受	郊外実習
6	自分の国の文化に	ついてを発表しよう		、発信することができ を傾聴することがで		る仲間の	個人
7	多様な人々と生活で	するための条件	多様な文化につい とができる。	て情況把握をし、主	体的に行動	動するこ	グループ
8	まとめ		このコマで行った内 表することができる]容について、チーム '。	ごとに振り	り返り、発	グループ
期末 試験	期末試験レポート		評価方法	課題の達成度	60%	受講	態度 4
【教	資料等を	配布する。					
【参	※考書】 必要に応	じて教員から指示し	<u>.</u> ます。				

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各国についての特徴について生活の中で情報収集する。

【質問方法】

教員室にて

【本講義に関しての質問先】担当教員

	【科目名)]		【担当教員】				
	職業理解(1		渡	邉みどり、田中 絹化	り、田中 絹代 ¹⁾			
>	《実務経験のある教』	員の授業科目	1)作業療法士(JI	ICA:独立行政法人国際协	岛力機構)44	年勤務	渡邉	
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業	形態】	【単位】	
王	際日本語学科	1	通年	30(60)	講義・	義·演習 3		
	の概要・目的】 [『] 目指す将来の職業を	を考え、その職業に	なるための人生設	計ができる。				
1)職業	目標(到達目標)】 とはなぜ必要なのかかが目指す職業を見て						して得られるカ】 発信力 傾聴力 柔軟性 表況把握力 規律性	
【履修_	上の注意】		主体的に	授業に参加しましょう				
回数	授業のテーマ	(担当教員)	授業(授業の内容・目標(使用教材等)				
1	ガイダンス	田中		職業はなぜ必要なのか?自分の将来の夢とは何かを考 えるきっかけができる。				
2	人生設計について	田中	人生設計とはなに とができる。	人生設計とはなにか理解し、自らの人生について考えるこ とができる。				
3	キャリアについて	田中	キャリアとはなにか とができる。	、理解し、自らの人生	についてネ	考えるこ	個人	
4	キャリア学習①	田中	職職業には様々職援助職であることが	は業があり、人に直接 が理解できる。	接する仕事	事が対人	グループ	
5	キャリア学習②-1	渡邉		を体験をすることで、 ぶあることを理解できる		人援助	グループ	
6	キャリア学習②-2	渡邉		を体験をすることで、 ぶあることを理解できる		人援助	グループ	
7	キャリア学習③-1	渡邉	VRを活用して専門 内容が理解できる	職とは何か?対人援 。	助職別の	職業の	グループ	
8	キャリア学習③-2	渡邉		VRを活用して専門職とは何か?対人援助職別の職業の 内容が理解できる。				
9	キャリア学習④	渡邉	VRで体験した専門 ることができる。	VRで体験した専門職の仕事や魅力について詳しく理解することができる。				
10	キャリア学習⑤	田中	自分の得意なこと、 理解できる。	、好きなことを生かした	 た仕事がま	あることを	個人	
11	キャリア学習⑥	田山		「ある職業について訓	べること	ができ	個人	

3	キャリアについて 田中	キャリアとはなにか とができる。	理解し、自らの人生について	考えるこ	個人		
4	キャリア学習① 田中	職職業には様々職援助職であることか	業があり、人に直接接する仕 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	事が対人	グループ		
5	キャリア学習②-1 渡邉		を体験をすることで、様々な対 あることを理解できる。	人援助	グループ		
6	キャリア学習②-2 渡邉	VRを活用して職業職の職務の違いが	グループ				
7	キャリア学習③-1 渡邉	VRを活用して専門 内容が理解できる。	VRを活用して専門職とは何か?対人援助職別の職業の 内容が理解できる。				
8	キャリア学習③-2 渡邉	VRを活用して専門 内容が理解できる。	VRを活用して専門職とは何か?対人援助職別の職業の 内容が理解できる。				
9	キャリア学習④ 渡邉	VRで体験した専門。 ることができる。	グループ				
10	キャリア学習⑤ 田中	自分の得意なこと、 理解できる。	自分の得意なこと、好きなことを生かした仕事があることを 理解できる。				
11	キャリア学習⑥ 田中		ある職業について調べること	ができ	個人		
12	キャリア学習⑦ 田中	職業とはなぜ必要7 性を考えることがで	なのかを理解し、仕事をすると きる。	いう重要	個人		
13	キャリア学習® 田中	グループで職業とは いてまとめことがで	t、めざす職業に必要なことは きる。	にかにつ	グループ		
14	キャリア学習⑨ 田中	グループで発表資料	グループで発表資料を作成する。				
15	キャリア学習⑨ 田中	グループごとに発え きる。	グループごとに発表を行い、職業の理解を深めることがで きる。				
期末 試験	期末試験レポート	評価方法	発表会の結果 課題の達成度	受講	態度 40%		

資料等を配布する 【教科書】

【参考書】

・専修学校における先端技術利活用実証研究 キャリア学習教育プログラム

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う

【本講義に関しての質問先】担当教員

	【科目名]		【担当教員】			【科目責任者】
	職業理解(2		渡	を追みどり、田中 絹化	t ¹⁾		渡邉
*	(実務経験のある教)			ICA:独立行政法人国際			
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】		形態】	【単位】
国]際日本語学科	1	通年	30(60)	講義	·演習	3
	の概要・目的】	を考え、その職業に	こなるための人生設	計ができる。			
学習	目標(到達目標)】					【受講	して得られるカ】
2なり		るように人生設計に	t業とのミスマッチをΓ こついて具体的に示 ことが理解できる。			4	発信力 傾聴力 柔軟性 青況把握力 規律性
万 修	 上の注意】		主体的に	授業に参加しましょう	<u> </u>		が 年 に
回数	授業のテーマ	?(担当教員)	1	の内容・目標(使用教			授業方法
16	ガイダンス		職業はなぜ必要な	このか?自分の将来のを考えることができる	の夢の実現	見に向け	個人
17	ミライの社会につい		2050年後などを踏っる。	2050年後などを踏まえ、社会がどうなっていくか理解できる。			
18	ミライの社会につい	て② 田中	自分のなりたい職	業がどうなるのか考え	えることが	できる。	個人
19	ミライの自分と社会		ミライの自分と社会 ことができる。	会にはどのような課題	があるの	か考える	個人
20	ミライの仲間と社会		ミライの仲間と社会 ことができる。	≷にはどのような課題	があるの	が考える	グループ
21	職業の理解①	渡邊	VRTカードを利用し 理解することができ	し、自らの職業の方向 きる。]や自信の	程度を	個人
22	職業の理解②	渡邊	再度、目指したい・ できる。	・興味がある職業にて	いて調べ	ることが	個人
23	人生設計について(① 田中	自分の人生設計に	こついて具体的に示す	ナことがで	 きる。	グループ
24	人生設計について		自らの人生につい きる。	て実行できるよう計画	<u> </u>	ことがで	個人
25	日本で学ぶための	***	日本で学ぶ際に必っきる。	多要な心構えを理解し	 実践する	ことがで	グループ
26	自己セルフケアにつ	· -	セルフケアとは何? とができる。	かを理解して、自らの	セルフケ	アを行うこ	個人
27	他者のセルフケアに		他者セルフケアと ることができる。	は何かを理解して、自	らできるこ	とを考え	グループ

渡邉|ることができる。 総合課題演習 I グループでミライを見据えた人生設計について必要なこと グループ 28 渡邉はにかについてまとめことができる。 総合課題演習Ⅱ 29 グループで発表資料を作成する。 グループ 渡邉 グループごとに発表を行い、ミライを見据えた人生設計に 総合課題演習Ⅲ 30 グループ ついて深めることができる。 渡邉 期末 期末試験レポート 受講態度 評価方法 発表会の結果 60% 40% 試験

[教科書] 資料等を配布する

・専修学校における先端技術利活用実証研究 キャリア学習教育プログラム【参考書】

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う

【本講義に関しての質問先】担当教員 【質問方法】 教員室にて

	【科目名	; 1		 【担当教員】			 【科目責任者】	
		· -		渡邉みどり				
	情報処理						渡邉	
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業	形態】	【単位】	
	際日本語学科	1	後期	8(15)	講	義	1	
【授業の	の概要・目的】							
基本的	」なOS機能を活用し	て、資料作成・グラフ	"等を使ってプレゼン	ができるようになる。	0			
学習目	目標(到達目標)】					【受講し	して得られる力】	
		利用方法について理					発信力	
		な利用方法について 基本的な利用方法に		でき る			傾聴力	
J) OW		をかけるがのかりない	. 50. C坯阱U天城(- C 0 °			柔軟性	
						帽	f 況把握力	
							規律性	
	上の注意】		1	受業に参加しましょう				
回数	授業のテー ⁻	マ(担当教員)	授業の)内容•目標(使用教	(材等)		授業方法	
1	ガイダンス	情報処理能力がなぜ必要性・活用性を理解する。				個人		
2	OS機器の操作方法	去②	OS機器の操作方法	を理解し実践できる	,)。		個人	
3	Wordの基本操作		Wordについて基本 る。	的な利用方法につい	へて理解し	実践でき	個人	
4	Excelの基本操作		Excelについて基本的	な利用方法について	理解し実置	浅できる。	個人	
5	PowerPointの基本	操作	PowerPointの操作/ できる。	こ必要な利用方法に	こついて理	解し実践	個人	
6	動画・ビデオ・写真の排	最影方法と編集について		動画・ビデオ・写真 トることが理解できる		テーマに	個人	
7	ビジネスシーンで活用す	る資料や文章について ①	ビジネスで活用する じた社外文書の違し	必要に応	個人			
8	ビジネスシーンで活用す	る資料や文章について ②		社公外文書の種類 違いを理解することが		、必要に	個人	
期末 試験	筆記試験		評価方法	小テスト	60%	受講	態度 40%	
【教	資料等を	配布する						

2020年最新改訂版! ワード/エクセル/パワーポイント 基本の使い方がぜんぶわかる本 Kindle版

教員室にて

【質問方法】

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う

【参考書】

【本講義に関しての質問先】担当教員

	【科目名)]		【担当教員】			【科目責任者】
	情報処理演	習		渡邉みどり			
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業	形態】	【単位】
玉	際日本語学科	1	後期	15(30)	演	習	1
	の概要・目的】 なOS機能を活用して	て、資料作成・グラフ	7等を使ってプレゼン	ンができるようになる 。			
学習問	目標(到達目標)】					【受講	して得られる力】
	機器を活用し、作成す			74-2-57			発信力
2)それ	に伴い必要なグラフ	や・動画・写具等な	どを、OS機器を活り	用して作成できる。			傾聴力
							柔軟性
						1	青況把握力
				I and all the second se			規律性
	上の注意】	(1= 1) 4(= :		授業に参加しましょう			I
回数	授業のテーマ	(担当教員)	授業(授業方法			
1	ガイダンス		情報処理能力がな	個人			
2	ワードで文章を作成	はする	ワードの機能を理解して、見やすい文書・文字体を活用して文書を見やすく作成できる。				個人
3	ワードで文章を作成	する書類を作る	ワードの機能を理解	解して、見やす書類か	「作成でき	る。	個人
4	PPTに、グラフ・写真	で取り込む	PPTの機能を理解して	、見やすグラフ・写真の取り	り込みが作り	成できる。	個人
5	PPTで動画を作成す	る	作成したグラフや	写真を使って動画を作	成できる	0	個人
6	PPTで動画を作成し	発表する	作成したグラフや写	真を使って動画を作成	さでき、発	表できる。	個人
7	プレゼン資料のテー	-マを決める	プレゼンの発表に できる	関する条件を理解した	ミテーマの	選択が	グループ
8	プレゼンテーマの資料	料作成計画を経てる	プレゼン資料を作り 討、実践できるまで	成するための作成計[ご準備できる。	画をグル-	ープで検	グループ
9	資料作成		プレゼン資料を作り 討、実践できるまで	成するための作成計Ⅰ で準備できる。	画をグル-	ープで検	グループ
10	資料作成		プレゼン資料を作り 討、実践できるまで	成するための作成計Ⅰ で準備できる。	画をグル-	ープで検	グループ
11	プレゼン大会の告知	ロチラシを作る	告知チラシの構成	を考えを作成すること	 :ができる	0	グループ

4	PPTに、グラフ・写真を取り込む	PPTの機能を理解して、	見やすグラフ・写真の取り	込みが作成できる。	個人
5	PPTで動画を作成する	作成したグラフや写	真を使って動画を作品	丸できる 。	個人
6	PPTで動画を作成し発表する	作成したグラフや写	真を使って動画を作成で	でき、発表できる。	個人
7	プレゼン資料のテーマを決める	プレゼンの発表に できる	グループ		
8	プレゼンテーマの資料作成計画を経てる	プレゼン資料を作成 討、実践できるまで	グループ		
9	資料作成	プレゼン資料を作成 対、実践できるまで	グループ		
10	資料作成	プレゼン資料を作成 対、実践できるまで	をグループで検	グループ	
11	プレゼン大会の告知チラシを作る	告知チラシの構成を	グループ		
12	プレゼン大会の告知をする	告知チラシを招待る	グループ		
13	プレゼンの準備	伝わりやすいプレt ができる。	郊外実習		
14	プレゼン大会	外部にむけて、資料	郊外実習		
15	まとめ				
期末 試験	期末試験レポート	評価方法	課題の達成度 発表会の結果	40% 受講 40%	態度 20%
【教	資料等を配布する 科書】			•	

【教枓書】

【参考書】

必要に応じて教員から指示します。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う

【本講義に関しての質問先】担当教員

【質問方法】

	【科目名]	【担当教員】				【科目責任者】
	ビジネスマナ-	一概論		渡邉みどり			渡邉
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業	形態】	【単位】
玉	際日本語学科	1	前期	8(15)		義	1
	の概要・目的】 ス実務マナー検定2	3級取得するため	の知識や技術を習得	导する。			
社会	目標(到達目標)】 :人として就業に必須 きる。	なビジネス知識や	対能を習得し、組織	の一員としての役割	・責任を	【受講し	
						悼	柔軟性 情況把握力 規律性
	上の注意】		1	授業に参加しましょう			
回数_ 1	授業のテーマ ガイダンス	?(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等) 社会人として求められる礼儀作法(ビジネスマナー)とは 何か理解することができる。			-)とは	授業方法 個人
2	第1章 必要とされる	 資質	企業が求められる資質(スキル)とは何かが理解でき実践 できる。				個人
3	第2章 企業実務			の、企業の仕組み・機 削や責任が何かが理			個人
4	第3章 対人関係			との良質なコミュニケ スムーズなコミュニケ きる。			個人
5	第4章 電話実務			ニケーションであるこ。 あることを理解する。		、電話が	個人
6	第5章 技能		ビジネスに必要な、 情報の処理を整理	情報の取り扱いを理 し対応できる。	里解し状況	に応じて	個人
7	総合演習 ①		第1章~3章で取得ンに合わせた実践	した知識・技術を活 ができる。	用してビジ	ネスシー	個人
8	総合演習 ②			第4章~5章で取得した知識・技術を活用してビジネスシーンに合わせた実践ができる。			
期末 試験	筆記試験		評価方法	小テスト	60%	受講	態度 40%
【教	[科書] ビジネス	マナー教科書 ビジ	ジネス実務マナー検定	₹2·3級らくらく合格テ	キスト&	問題集	

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う

【質問方法】

教員室にて

【本講義に関しての質問先】担当教員

	【科目名]		【担当教員】				
	ビジネスマナー	_ '定羽		渡邉みどり			渡邉	
	こンホスマノ-	一供白					浪 塰	
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業	形態】	【単位】	
玉]際日本語学科	1	前期	15(30)	演	習	1	
	の概要・目的】							
	ス実務マナー検定2	・3級取得するための	の知識や技術を習得	引する。				
	目標(到達目標)】	4 - 6 - m e				【受講	して得られる力】	
	したことを振り返り、 ネス実務マナー検定						発信力	
として	かん 天伤 マノ 一快 た	こと、3前又し、9 イレル・1~ ロ	格することができる	0			傾聴力	
							柔軟性	
						ή.	青況把握力	
	-						規律性	
	上の注意】			受業に参加しましょう				
回数	授業のテーマ	?(担当教員)	授業の)内容・目標(使用教	(材等)		授業方法	
1	第1章 必要とされる	資質(実践)	企業が求められる資質(スキル)について、自己実践し自 己課題を抽出することができる。				個人	
2	第2章 必要とされる	資質(応用)	企業が求められる資質(スキル)について、自己実践し自 己課題を抽出することができる。				個人	
3	第2章 企業実務(実	践)	企業の実務につい ことができる。	て、自己実践し自己	の役割を	油出する	個人	
4	第3章 対人関係(実	践)	対人関係について、 ができる。	、自己実践し自己課	題を抽出す	すること	個人	
5	第4章 対人関係(応	5用)	対人関係について、 ができる。	、自己実践し自己課	題を抽出す	すること	個人	
6	第4章 電話実務(実		電話実務について、 ができる。	、自己実践し自己課	題を抽出っ	すること	個人	
7	第5章 電話実務(応	5用)	電話実務について、 ができる。	、自己実践し自己課	題を抽出す	すること	個人	
8	第5章 技能(実践)		技能について、自己る。	技能について、自己実践し自己課題を抽出することができる。				
9	第5章 技能(応用)		技能について、自己る。	2実践し自己課題を	抽出するこ	とができ	個人	
10	ビジネス実務マナー 策①	-検定3級 試験対		検定3級出題範囲を理 いて明確に理解できる			個人	
	i							

2	第2章 必	要とされる資質(応用)	企業が求められる ご課題を抽出するこ		て、自己質	実践し自	個人	
3	第2章 企	業実務(実践)	企業の実務につい ^っ ことができる。	て、自己実践し自己	の役割を	油出する	個人	
4	第3章 対	人関係(実践)	対人関係について、 ができる。	対人関係について、自己実践し自己課題を抽出することができる。			個人	
5	第4章 対人関係(応用)		対人関係について、 ができる。	自己実践し自己課	題を抽出す	すること	個人	
6	第4章 電	話実務(実践)	電話実務について、 ができる。	自己実践し自己課	題を抽出で	すること	個人	
7	第5章 電	話実務(応用)	電話実務について、 ができる。	自己実践し自己課	題を抽出す	すること	個人	
8	第5章 技	技能(実践)	技能について、自己る。	と実践し自己課題を	抽出するこ	ことができ	個人	
9	第5章 技	技能(応用)	技能について、自己る。	と実践し自己課題を	抽出するこ	ことができ	個人	
10	ビジネス! 策①	実務マナー検定3級 試験対	ビジネス実務マナー検定3級出題範囲を理解し、自己採点で不 正解だった問題について明確に理解できるようになる。				個人	
11	ビジネス! 策②	実務マナー検定3級 試験対	ビジネス実務マナー校 正解だった問題につい				個人	
12	ビジネス! 策①	実務マナー検定2級 試験対	ビジネス実務マナー校正解だった問題につい				個人	
13	ビジネス! 策②	実務マナー検定2級 試験対	ビジネス実務マナー校正解だった問題につい				個人	
14	模擬試験	<u> </u>	模擬試験を行い、、 て明確に理解できる		だった問題	直につい	個人	
15	模擬試験	(2)	模擬試験を行い、、 て明確に理解できる		だった問題	配につい	個人	
期末 試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	80%	受講	態度 2	20%
【教	:科書】	ビジネスマナー教科書 ビジ	ネス実務マナー検定	2・3級らくらく合格テ	キスト&間	引題集 『		
7.4	*	ビジネスマナー教科書 ビジ	ネス実務マナー検定	2・3級らくらく合格ラ	キスト&間	引題集		
【参 	考書】	 ビジネス実務マナー検定 実	問題集2∙3級					
7 1 127 MF 1 1 1	7###BBU > 7###BBU > 7### ABU 7### ABU 7#### ABU 7### ABU 7##							

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う

【本講義に関しての質問先】担当教員 【質問方法】 教員室にて

	【科目名	i 】		【担当教員】			【科目責任	者】
	介護福祉学	2(1/3)		渡邉みどり			渡邉	
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業	形能】	【単位】	
〒		1	前期	45(90)	講		<u> </u>	
	の概要・目的】	1	HIIAN	43(90)	中	找	J	
		戦としての基本的な ?	知識や技術を学び、:	介護従事者としての	心構えが ⁻	できる。		
学習1	目標(到達目標)】					【受講し	して得られるカ	<u>.</u>
	· · · · · · · · · · · · - · · · · · · -	可かが理解でき、介	護職としての役割や	日本国の福祉制度に	こついて	₹ ~H17	発信力	•
	きる。						傾聴力	
2)介護 バでき		、介護に必要な専門	性についての知識や	P技術を習得し実践 [®]	すること		柔軟性	
, (, 2	৩ 。					帽		
							規律性	
居 修	上の注意】		主体的に	受業に参加しましょう			が井江	
<u>腹鸠-</u> 回数)内容・目標(使用教		Ι		
当 致	授業のテー	*(担ヨ教員)				B > 11 753	投 未刀法	<u>: </u>
1	介護を取り巻く環境	÷	なぜ介護が必要なのかについて理解し、介護に関心や興 味を持つことができる。			グループ	,	
2	介護とはなにか 尊厳を支える・自立 とはなにか	える・自立支援を支える介護 「介護」・「倫征」とはなにか、なせ必要なのかか理解でき、				グループ	,	
3	介護保険制度とそ	の他のサービス	ビス 介護保険制度や対象ととなる利用者が理解できる。				グループ	>
4	介護職の役割と多期	能種の連携について	か連携について 介護職はチームで支援を行うということが理解でき、介護職としてのチームでの連携について理解できる。				グループ	,
5	コミュニケーションの	の方法	介護におけるコミュニケーションとは何かを理解し、介護職 としての対応方法が理解できる。				グループ)
6	介護を必要とする。	人の理解	老化とは何かを理解し、障害によって支援の方法が異なることが理解できる。				グループ	>
7	障がい・認知症の3	里解	障害や認知症に関 支援方法を考え実施		を、認知症(こ対する	グループ	,
8	心身に応じた介護		介護職として支援し 実践できる。	ていくうえで必要な	心構えが理	里解でき	グループ	,
9	介護技術入門		介護に必要な環境· る。	や用具の取り扱いか	「理解でき	実践でき	グループ	,
10	移動介助のリスク		移動・移乗の違いやリスクがあることを理			うえでの	グループ)
11	身じたくのリスク		身じたくについての リスクがあることを野			うえでの	グループ)
12	食事の介護のリス	ク	食事についての必要 ることを理解し実践		うえでのリ	スクがあ	グループ)
13	入浴の介護のリス	ク	入浴についての必要 ることを理解し実践	要性や、介助をする ができる。	うえでのリ	スクがあ	グループ	,
14	排泄の介助のリス	ク	排泄についての必要 ることを理解し実践		うえでのリ	スクがあ	グループ	,
15	まとめ		介護職の役割を理解	介護職の役割を理解した、支援を考えチームで実践できる。				۴
期末 試験	筆記•実技試験		評価方法	筆記試験 実技試験	40% 40%	受講	態度	2
【教	(17音)	の介護入門研修テキ						
【参	・考書】 必要に応	じて教員から指示し	ます。					_

【本講義に関しての質問先】担当教員

【質問方法】

	【科目名】			【担当教員】			【科目責任者】	
	介護福祉学(2/3)		渡邉みどり			渡邉	
	【対象学科】	 【学年】	 【開講時期】	【回数(時間)】	【授業	形態】	【単位】	
玉	際日本語学科	1	前期	45(90)		義	3	
【授業の	の概要・目的】							
介護に	関心が持て、介護職	としての基本的な	お知識や技術を学び、	介護従事者としての	心構えが	できる。		
【学習	目標(到達目標)】					【受講	して得られる力】	
	職としての役割や介						発信力	
2 介護	の専門性について <i>0</i>)知識や技術を習	!得し実践することがで	できる。			傾聴力	
							柔軟性	
						*	青況把握力	
						'	規律性	
【履修」	上の注意】		 主体的に	授業に参加しましょう)	<u> </u>		
回数	授業のテーマ	(担当教員)	1	授業の内容・目標(使用教材等)				
16	前期の復習① 講義	<u>E</u>	前期で何を学んだ 解し実践できる。	前期で何を学んだのかを理解し、介護職としての職務を理解し実践できる。				
17	前期の復習② 実技	支	前期で何を学んだ解し実践できる。	前期で何を学んだのかを理解し、介護職としての職務を理 解し実践できる。				
18	心身に応じた介護		介護職として支援し実践できる。	介護職として支援していくうえで必要な心構えが理解でき 実践できる。				
19	介護技術入門		介護に必要な環境る。	や用具の取り扱いか	理解でき	実践でき	グループ	
20	移動介助の方法			や必要性が分かり、1 理解し実践ができる。		らうえでの	グループ	
21	移動介助の方法			や必要性が分かり、1 理解し実践ができる。		ろうえでの	グループ	
22	身じたくの介護の方	法)必要性が分かり、介 理解し実践ができる。		うえでの	グループ	
23	食事の介護の方法		食事についての必 ることを理解し実践	要性や、介助をする もができる。	うえでのリ	コスクがあ	グループ	
24	入浴の介護方法にて	ついて	入浴についての必 ることを理解し実践	要性や、介助をする ^{後ができる。}	うえでのリ	ノスクがあ	グループ	
25	移動介助の方法			や必要性が分かり、1 理解し実践ができる。		ろうえでの	グループ	
26	排泄の介助方法につ	ついて	排泄についての必ることを理解し実践	要性や、介助をする もができる。	うえでのリ	スクがあ	グループ	

19	介護技術入門	介護に必要な環境やる。	中具の取り扱いが理	解でき実践でき	グループ
20	移動介助の方法	移動・移乗の違いや リスクがあることを理	必要性が分かり、介助 解し実践ができる。]をするうえでの	グループ
21	移動介助の方法	移動・移乗の違いや リスクがあることを理	必要性が分かり、介助 解し実践ができる。]をするうえでの	グループ
22	身じたくの介護の方法	身じたくについての必 リスクがあることを理	必要性が分かり、介助 解し実践ができる。	をするうえでの	グループ
23	食事の介護の方法	食事についての必要ることを理解し実践が	性や、介助をするうえ バできる。	でのリスクがあ	グループ
24	入浴の介護方法について	入浴についての必要 ることを理解し実践が	でのリスクがあ	グループ	
25	移動介助の方法	移動・移乗の違いや リスクがあることを理	グループ		
26	排泄の介助方法について	排泄についての必要ることを理解し実践が	グループ		
27	介護の応用編①	片麻痺の人への支持	きる。	グループ	
28	介護の応用編②	認知証の人への支持	きる。	グループ	
29	介護の応用編③	寝たきりの人の支援	·る。	グループ	
30	まとめ	その人に寄り添う介 することができる。	護職として支援	グループ	
期末 試験	筆記·実技試験	評価方法	筆記試験 実技試験	40% 受講 40%	態度 20%
 【教	はじめての介護入門研修テニ科書】	キスト第2版			

【教枓書】

必要に応じて教員から指示します。 【参考書】

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各国についての特徴について生活の中で情報収集する。

【本講義に関しての質問先】担当教員 【質問方法】 教員室にて

【科目名]		【科目責任者】			
介護福祉学	(3/3)		渡邉みどり		渡邉	
月 设佃证 于	(3/3)		波 登			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
国際日本語学科	語学科 1 後期 45(90) 講義		3			
【授業の概要・目的】						

【授業の	の概要・目	的】		•				
介護に	関心が持	て、介護職としての基本的な知	知識や技術を学び、	介護従事者としての心	構えがで	きる。		
	目標(到達	· · · · · =		ひた中吐ナフェレギズ	ヒ フ	【受講	して得られる力】	
しが護	の母門性	についての知識や技術を理角	#した上で、女主"女	ひな美成りることかじる	きる。	発信力 傾聴力		
						柔軟性		
						4	情況把握力	
<u></u>		T					規律性	
	Lの注意】			受業に参加しましょう	ht.		ᅜᇝᄱᆇᆛᆛ	
回数	授:	業のテーマ(担当教員)		カロック はまま アンス の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	-	9.677 I ===	授業方法	
31	介護福祉	-学Ⅱの復習	践できる。	里解し、介護職としての	職務を埋	≧解し美	グループ	
32	介護技術	入門 復習	介護に必要な環境 る。	や用具の取り扱いが理	解でき実	践でき	グループ	
33	移動介助	の方法 復習		ら必要性が分かり、歩行 とを理解し実践ができる		するうえ	グループ	
34	移動介助	の方法 復習		ら必要性が分かり、車し ことを理解し実践ができ		をするう	グループ	
35	身じたくの	の介護の方法 復習	身じたくについての必要性が分かり、座位での介助をする うえでのリスクがあることを理解し実践ができる。 グルー					
36	身じたくの	の介護の方法 復習		必要性が分かり、寝た スクがあることを理解し			グループ	
37	食事の介	護の方法 復習	食事についての必 ることを理解し実践	要性や、介助をするうえ ができる。	こでのリス	くりがあ	グループ	
38	入浴の介	護方法について 復習	入浴についての必 ることを理解し実践	要性や、介助をするうえ ができる。	こでのリス	くかあ	グループ	
39	排泄の介	か助方法について 復習	排泄についての必要性や、トイレ介助をするうえでのリス クがあることを理解し実践ができる。				グループ	
40	排泄の介	か助方法について 復習	排泄についての必要性や、オツム交換をするうえでのリス クがあることを理解し実践ができる。			グループ		
41	介護の応	5用編①	片麻痺の人への支援方法を考え、実践できる。				グループ	
42	介護の応	用編②	認知証の人への支	援方法を考え、実践で	きる。		グループ	
43	介護の応	5用編③	寝たきりの人の支持	爰方法を考え、実践でき	きる。		グループ	
44	介護福祉	学総合課題演習	課題に対する支援	方法について実践でき	る。		個人	
45	まとめ		介護福祉学を総合	的に理解ができる。			個人	
期末 試験	筆記·実持	支試験	評価方法	筆記試験 実技試験	40% 40%	受講	態度 20%	
【教	科書】	はじめての介護入門研修テキ	キスト第2版					
【参	考書】	必要に応じて教員から指示し	,ます。 					
[授業時間外に必要な学習の具体的内容] 各国についての特徴について生活の中で情報収集する。								
【本講郭	らに関して の	の質問先】担当教員	【質問方法】	教員室にて				

	 【科目			 【担当教員】			【科目責任者】
		<u> </u>		渡邉みどり			渡邉
					= 1		
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】		形態】	【単位】
	際日本語学科	1	前期	60(120)	誦	義	4
【授耒(の概要・目的】						
日本で	進路を決める際、	進め方のポイントを学	学習し、自分で進路を	決めることが出来る	0		
	目標(到達目標)】					【受講	して得られる力】
	・希望する進路を選 ついて計画を立て	髦択することが出来る。 てスニレが出来る。					発信力
に四に		こることが出入る。					傾聴力
							柔軟性
						1	青況把握力 - #8.43.#4
【层收	上の注意】		÷ /+ 65.1 − 1	<u> </u>			規律性
	· <u>- 1</u>		1	受業に参加しましょう))内容・目標(使用教			授業方法
回数	技夫のナー	- (担ヨ叙貝)	技未り	7内谷"日信(使用名	(付守)		授未 万法
1	オリエンテーション		なぜ進路は自分で	決めなければならな	いのか。		クループ
2	進路の決め方		自分の得意なこと、 けることが出来る。	好きなことより興味の	のある職業	業を見つ	個人
3	自己分析①自分を知る 進路を決めるに当たり、自分自身の長所・短所を知ること が出来る。				知ること	個人	
4	自己分析②自分	自己分析②自分にあった職業を知る どのような職業が自分に合っているか知ることが出来る。				個人	
5	日本就業する条件	件	日本で働く際の条件	牛・スキルが理解でき	きる。		個人
6	進路計画を立てる	5	1年間の進路準備に	こ向けて自分で計画	が立てられ	れる。	個人
7	求人・進学の見つ	Oけ方	学校検索、求人等(の見方に付いて理解	できる。		グループ
8	自分の進路を人	に伝えよう	自分が希望する進路について自分の意見を発表でき る。。			グループ	
9	就職した先輩の詞	= 1	日本で就職した外国国籍の方と意見交換ができる。				グループ
10	就職した先輩の詞	= 2	日本で進学した外間	国国籍の方と意見交	換ができ	る。	グループ
11	就職紹介会社との	の座談会	日本の企業との意	見交換ができる(ホラ	テル業界)		グループ
12	就職受け入れ先	との座談会	日本の企業との意	見交換ができる(清排	帚業界)		グループ
13	進路計画の見直	L	決めた進路がミスマ できるか確認ができ	マッチではないか、計 きる。	画はきち	んと実行	個人
14	これから必要なこ	<u>ا</u> خ	計画の実施に当た	って必要なことが理	解できる。		グループ
15	まとめ		進路進め方、自分ではあるかわかる。	で進路を決めた進路	について	どのよう	グループ
期末 試験	期末試験レポート		評価方法	課題の達成度	60%	受講	態度 40%
【教	科書】	を配布する					
【参	考書】 必要に	応じて教員から指示し	ンます。 				
	間外に必要な学習の		_				
【本講郭	遠に関しての質問先	担当教員	【質問方法】	教員室にて			

		1		 【担当教員】			【科目責任者】
	介護福祉演習	冒(2/4)		112.E. 7.C. 7			渡邉
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業	形態】	【単位】
	際日本語学科	1	後期	60(120)	講	義	4
【授業の	の概要・目的】						
自分で	決めた進路について	て計画的に実行でき	る。				
	目標(到達目標)】					【受講	して得られる力】
	を決定することが出		7				発信力
進路	たに合格または内正	でもらうことが出来る	ි				傾聴力
							柔軟性
						†	青況把握力
	1						規律性
	上の注意】		主体的に授業に参加しましょう				
回数	授業のテーマ	7(担当教員)	授業の)内容•目標(使用教	(材等)		授業方法
16	オリエンテーション		前期で行った学習の	の振り返りが出来る。	•		グループ
17	進路の計画の進捗	について	計画した進路につい	ヽての進捗が説明で	きる。		個人
18	入試・就職時に備え	えて①	志望動機を文字で説明することが出来る①				個人
19	入試・就職時に備 <i>え</i>	えて②	願書および就職エントリーシートの書き方①				個人
20	入試・就職時に備えて③ 身だしなみ、礼儀マナーが出来る①				グループ		
21	入試・就職時に備えて④ 面接の応答の仕方①				個人		
22	入試・就職時に備え	ての心構え①	日本で就職した外国	国国籍の方と意見交	換ができ	る。	個人
23	入試・就職時に備え	ての心構え②	日本で進学した外国	国国籍の方と意見交	換ができ	る。	グループ
24	後輩に入試・就職時に備え	えてのハンドブックを作ろう	ハンドブックの企画 て)	をする。(目的・記載	する概要	につい	グループ
25	後輩に入試・就職時に備え	えてのハンドブックを作ろう	各項目ごとにグル- 考える。①	−プを決め、項目ごと	:に記載す	る内容を	グループ
26	後輩に入試・就職時に備え	えてのハンドブックを作ろう	各項目ごとにグルー 考える。②	−プを決め、項目ごと	≤に記載す	る内容を	グループ
27	後輩に入試・就職時に備え	えてのハンドブックを作ろう	各項目ごとにグル- 考える。③	−プを決め、項目ごと	≤に記載す	る内容を	グループ
28	後輩に入試・就職時に備え	えてのハンドブックを作ろう	ハンドブックの構成	をする。			グループ
29	後輩に入試・就職時に備え	えてのハンドブックを作ろう	ハンドブックの最終	構成をする。			グループ
30	JL学科の2年生に「	句けての発表	入試・就職時に備え	こてのハンドブック			グループ
期末 試験	期末試験レポートの		評価方法	課題の達成度	60%	受講	態度 40%
【教	科書】	配布する					
	· 有音】	じて教員から指示し	.ます。 				
	間外に必要な学習の具		Feene Co.	w o ·			
【本講	襲に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて			

	【科目名]		【担当教員】			【科目責任者】
	介護福祉演習	3 (3/4)		渡邉みどり			渡邉
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業	形態】	 【単位】
玉]際日本語学科	1	前期	45(90)	講	··· ·	3
	の概要・目的】			, ,			
現場で	活用する福祉のテク	フノロジーについて、	介護従事者として必	要な知識・技術を習	得する。		
	目標(到達目標)】)テクノロジーの活用	方法を理解し、自ら	活用方法について写	ミ践できる。		【受講して得られる力】 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性	
【履修」	上の注意】		主体的に持	受業に参加しましょう			
回数 授業のテーマ(担当教員) 授業の内容・目標(使用教材等)					授業方法		
31	求められる介護職の	上は①	現場で求められるネ	現場で求められる福祉職とは何か理解できる。			個人
32	福祉のテクノロジー	-について①	福祉のテクノロジー	の種類について理解	解できる。		個人
33	福祉業界の福祉のテクノ	ロジーの課題について①	福祉業界のテクノロ	福祉業界のテクノロジーの種類について理解できる。			
34	福祉のテクノロジー	-体験演習①-1	ロボット機器の活用方法について理解できる。				グループ
35	福祉のテクノロジー	-体験演習②-1	ロボット機器の活用方法について理解できる。				グループ
36	福祉のテクノロジー	-体験演習③-1	ロボット機器の活用方法について理解できる。				グループ
37	福祉のテクノロジー	-体験演習④-1	ロボット機器の活用	方法について理解	できる。		グループ
38	福祉の福祉用具体	験演習①	•介護保険制度				グループ
39	テクノロジーの活用方法	についての理解①-1	活用するための課題 きる。	題が理解でき解決策	を考えるこ	ことがで	グループ
40	テクノロジーの活用方法	についての理解②-1	グループごとに活用 る。	月方法∙課題∙解決策	について	発表でき	グループ
41	施設見学 老人ホ-	- ム①-1	現場で活用している ことができる。	6テクノロジーの活用	方法につ	いて知る	グループ
42	施設見学 デイサー	-ビス①-1	現場で活用している ことができる。	6テクノロジーの活用	方法につ	いて知る	グループ
43	施設見学 障害施設	设①-1	現場で活用している ことができる。	6テクノロジーの活用	方法につ	いて知る	グループ
44	施設見学 訪問介護	護①-1	現場で活用していることができる。	るテクノロジーの活用	<u>_</u>]方法につ	いて知る	グループ
45	介護総合課題演習	①-1	見学したことについ ができる。	てグループごとにま	とめ発表す	すること	グループ
期末 試験	期末試験レポート		評価方法	課題の達成度	60%	受講	態度 40%
【教	資料等を	配布する					
	· 有音】	じて教員から指示し					
	特間外に必要な学習の具 義に関しての質問先】		を活用した、プレゼン 【質問方法】	の事例の検索を行う 教員室にて	<u> </u>		

【科目名]		【科目責任者】			
介護福祉演習	P(1/1)		渡邉みどり		渡邉	
刀 设 油 位/共 6	3(4/4)		/文/空			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
国際日本語学科	1	後期	60(120)	演習	4	

・介護初任者研修課程で学んだ介護技術を再度確認し、理解を深める。									
①リス ②介護	をのレクリコ	ントの必要性がわかり、プロセ Cーションについての必要性を	理解し、自らレクリエ	ニーションを計画できる	0	して得られる力】 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性			
【履修.	上の注意】		主体的に打	受業に参加しましょう		_			
回数	授	業のテーマ(担当教員)	授業の)内容•目標(使用教材	· 等)	授業方法			
46	リスクマ	ネジメントについて①	リスクマネジメントと かが理解できる。	は何かどのようにマネ	ジメントするべき	グループ			
47	リスクマス	ネジメントについて②	感染症についての「	リスク対策が理解でき	、実践できる。	グループ			
48	リスクマ	ネジメントについて③	災害時に関するリス 践	くクマネジメントとは何	か理解でき、実	グループ			
49	感染症丸	策について	手洗い、予防着の場	麦着を適切に実践でき	る。	グループ			
50	災害対策	Eについて	災害を想定し、介護	グループ					
51	介護のレ	クリエーションとは	介護のレクリエーシ 解できる。	ョンとはどのような場面	面で行うのか理	グループ			
52	レクリエー	ーション実践①	日本の歌を学び、そ	たの意味や歌う場面が	理解できる。	グループ			
53	レクリエー	ーション実践②	日本の春の行事に きる。	グループ					
54	レクリエー	ーション実践③	日本の夏の行事に きる。	グループ					
55	レクリエー	−ション実践④	日本の秋の行事にきる。	ついて、風習や作法に	ついて実践がで	グループ			
56	レクリエー	ーション実践⑤	日本の冬の行事に きる。	ついて、風習や作法に	ついて実践がで	グループ			
57	レクリエー	-ション総合演習①	グループごとにレク ができる。	リエーションを計画し、	そのための準備	グループ			
58	レクリエー	ーション総合演習①	施設でレクリエーシ	ョンが実践できる。		グループ			
59	レクリエー	-ション総合演習②	施設でレクリエーシ	ョンが実践できる。		グループ			
60	このコマで行った内容について、チームごとに 表することができる。				1	個人			
期末 試験	験 革記・美技試験 詳価方法 実技試験 40% 受調				態度 20%				
	科書】	介護職員初任者研修テキスト							
	【参考書】 必要に応じて教員から指示します。								
		な学習の具体的内容】OS機器を	1						
【本講	酸に関して!	の質問先】担当教員	【質問方法】	教員室にて					

	【科目名]		【担当教員】			【科目責任者】
	介護総合(1	/4)		渡邉みどり			渡邉
	【対象学科】	 【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業	形態】	 【単位】
玉	際日本語学科	1	前期	15(30)		義	1
	の概要・目的】 長助コミュニケーション	の必要性が理解で	き実践できる。				
目己覚 対人コ	目標(到達目標)】		:のコミュニケーション	ンができる。			して得られる力】 発信力 傾聴力 柔軟性 表況把握力 規律性
	上の注意】		1	授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ	?(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)				授業方法
1	オリエンテーション		対人援助コミュニケ ぶ学習ポイント	グループ			
2	自己覚知(self-awareness)自分の例	感情の動きや思考回路を知る。①	他者とのコミュニケ 表現しているか理解	グループ			
3	自己覚知(self-awareness)自分のA	感情の動きや思考回路を知る。②	自分も他人も知ってい特性を狭めてい	も知らな	グループ		
4	自分の表現する①		人に知ってほしい	自分のアピールポイン	ノトが伝え	られる。	グループ
5	自分の表現する②			からやってみたいこと			グループ
6	自分の表現する③		はどう感じているの	らとき、相手の詰の内)か、自分が好きな人 <u>まに注意してみてくた</u>	と苦手な		グループ
7	自分の表現する④		自分がどんな考え 知ることができる。	方や感じ方や行動バ		あるのか	グループ
8	対人とのコミュニケー	ーション①	初対面でのコミュニ がわかる。	ニケーションでファース	ストコンタク	アトの方法	グループ
9	対人とのコミュニケー	ーション②	傾聴や受容の重要	性がわかり実践でき	る。		グループ
10	対人とのコミュニケー	ーション③	良い受け答えや質	問の仕方がわかり事	践できる	0	グループ
11	対人とのコミュニケー	ーション④	話を整理して端的に	こわかりやすく説明で	 ごきる。		グループ
12	対人とのコミュニケー		対人援助者に必要	「なマナーについてわ	かり実践	できる。	グループ

5	自分の表現する②	自分の夢や、これが	いらやってみたいこと	が伝えられ	れる。	グルー	 -プ
6	自分の表現する③	はどう感じているの	っとき、相手の詰の内 か、自分が好きな人 記に注意してみてくだ	と苦手なん		グルー	-プ
7	自分の表現する④	自分がどんな考えて 知ることができる。	方や感じ方や行動パ	ターンがま	あるのか	グルー	ープ
8	対人とのコミュニケーション①	初対面でのコミュニ がわかる。	ケーションでファース	トコンタク	トの方法	グルー	ープ
9	対人とのコミュニケーション②	傾聴や受容の重要	性がわかり実践でき	る。		グルー	ープ
10	対人とのコミュニケーション③ 良い受け答えや質問の仕方がわかり実践できる。					グルー	ープ
11	対人とのコミュニケーション④ 話を整理して端的にわかりやすく説明できる。					グルー	ープ
12	対人とのコミュニケーション⑤	対人援助者に必要	なマナーについてわ	かり実践 ⁻	できる。	グルー	 -プ
13	実践①	人に説明する。①こ	れから行うことを伝え	える。		グルー	 -プ
14	実践②	人に説明する。②ノ	にお願いする。			グルー	 -プ
15	振り返りを行い、この字習を通して対人コミュニケーション まとめ スキルを活用し、他者とのコミュニケーションの重要性が 理解できる。					グルー	-プ
期末 試験	期末試験レポートの提出						40%
【教	資料等を配布する 科書】						

【教科書】

必要に応じて教員から指示します。 【参考書】

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】

【本講義に関しての質問先】担当教員 【質問方法】 教員室にて

	【科目名	i]	【担当教員】				【科目責任者】
	介護総合(2/4)		渡邉みどり			渡邉
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業	形能】	 【単位】
	際日本語学科	1	前期	60(120)	演		4
	の概要・目的】	<u> </u>	1	<u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , , </u>			
介護初	仟者研修課程で学	んだ知識・技術を再	度学び理解を深める	5.			
	目標(到達目標)】		<u> </u>			【受講	 して得られる力】
		知識を再確認し、実	践することができる。				発信力
<i>-</i> 173 1.—							傾聴力
							柔軟性
						4	青況把握力 情況把握力
						•	規律性
履修.	上の注意】		主体的に	受業に参加しましょう	I う		7,511 1
回数	授業のテー	マ(担当教員)	授業の)内容·目標(使用教	(材等)		授業方法
1	介護における職務	の理解	介護職が、活躍で	介護職が、活躍できる実際の現場について理解できる。			
2	介護における尊厳の	の保持と自立支援①	なぜ、介護に必要な 支援していくことをヨ	個人			
3	介護における尊厳の	D保持と自立支援②	なぜ、介護に必要な 支援していくことをヨ	個人			
4	介護の基本①		介護の基本を理解し介護の専門職として支援していくことを理解する。				個人
5	介護の基本②		介護の基本を理解し介護の専門職として支援していくことを理解する。				個人
6	虐待防止・身体拘束について なぜ、介護に必要なのかが理解し、介護の専門職として 支援していくことを理解する。					個人	
7	老化の理解①		老化に伴って低下する身体機能について体験し日常生活に支障があることを理解する。				個人
8	老化の理解②		老化に伴って低下で、ことを	する身体機能につい 理解する。	で体験しE	日常生活	個人
9	認知症の理解①		認知症に伴うこころ 支援ができる。	とからだの変化につ	いて理解	した上で	個人
10	認知症の理解②		認知症に伴うこころ 支援ができる。	とからだの変化につ	いて理解	した上で	グループ
11	障害の理解①		障害に伴うこころと 援ができる。	からだの変化につい	て理解した	た上で支	個人
12	障害の理解②		障害に伴うこころと 援ができる。	からだの変化につい	<u>_</u> へて理解した	た上で支	グループ
13	介護におけるコミュ	ニケーション技術①	介護におけるコミュ 実践できる。	ニケーションの必要	性について	て理解し	個人
14	介護におけるコミュ	ニケーション技術②	介護におけるコミュニケーションの必要性について理解し 実践できる。				グループ
15	介護福祉演習課題	演習	介護職として必要なことは何か、自ら説明ができる。				グループ
期末 試験	筆記·実技試験		評価方法	筆記試験 実技試験	40% 40%	受講	態度 20%
【教	科書】 介護職員	前初任者研修テキス	ト 第1・2版				
【参	:考書】 必要に応	じて教員から指示し	ノます。 ・				
	問めに必要な労労の目	はなりないのは、	ト活用した プレゼン	の事例の検索を行う	<u> </u>		

【科目名]		【科目責任者】		
介護総合(3	D / A)		渡邉		
刀 暖	0/4)				反查
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	45(90)	講義	3

介護職員初任者研修課程のカリキュラムを通し、介護従事者として必要な知識・技術を学ぶ。

【学習目標(到達目標)】

- ①介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージできる。
- ②利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、基本的視点及びやってはいけない行動例を理解できる
- ③介護職の専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策を理解できる。
- ④介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支える視点から支援を捉える事ができる。
- ⑤のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることを認識し、専門職に求められていることを認識できる。

【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 生活援助技術

心身機能と構造の理解

【履修上の注意】

16 職務の理解①									
16	授]数	授業のテーマ(担当教員)	授業の)内容・目標(使用教	材等)	授	業方法	
17	職務の理	16	職務の理解①					個人	
18	職務の理	17	職務の理解②					個人	
19	介護にお	18						個人	
20 1	介護にお								
21 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	介護にお	20		ノい正とサームと入れ				個人	
22 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	介護の基	21	介護の基本①			携		個人	
23 医療との連携① ・介護保険制度 ・介護保険制度 ・介護・福祉サービスの理解と ・医療との連携とリハビリテーション 個 25 介護・福祉サービスの理解と ・介護職の安全 ・介護職の安全 個 老化の理解① ・老化に伴うこころとからだの変化と日常 個 27 老化の理解② ・高齢者の健康 個 28 認知症の理解① ・認知症を取り巻く状況 ・医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 29 認知症の理解② ・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ・家族への支援 ・家族への支援 ・障がいの基礎的理解・家族の心理、かかわり支援の理解 ・障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支 個 でがいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支 個	介護の基	22	介護の基本②		の確保とリスクマネ	ジメント		個人	
24 医療との連携② ・医療との連携② ・ 医療との連携② ・介護職の安全 個 25 医療との連携③ ・ 介護職の安全 ・ の護職の安全 ・ を化に伴うこころとからだの変化と日常 個 26 老化の理解① ・ 老化の理解② ・ 高齢者の健康 個 27 老化の理解② ・ 認知症を取り巻く状況・医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 ・ 認知症の基礎と健康管理 29 認知症の理解② ・ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活・家族への支援 個 29 障がいの理解 ・ でがいの理解 ・ できないの支援 個 30 障がいの理解 ・ できないの理解とまるとからだの変化と日常生活・家族への支援 ・ できないの要素をあるとは、ないの事業をあると思います。 できないの事業をあるとは、ないの事業をあると思います。 できないの事業をあると思います。 できないの事業を表す。 できないの事業をあると思います。 できないの事業を表すると思います。 できないの事業を表す。 できないの事業を表すると思います。 できないの事業を表すると思いますると思います。 できないの事業を表すると思います。 できないの事業を表する。 できないの事業を表すると思います。 できないの事業を表すると		23 I		-介護保険制度				個人	
25 医療との連携③ ・介護職の安全 個 26 老化の理解① ・老化に伴うこころとからだの変化と日常 個 27 老化の理解② ・高齢者の健康 個 28 認知症の理解① ・認知症を取り巻く状況・医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 個 29 認知症の理解② ・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活・家族への支援 個 30 障がいの理解 ・障がいの基礎的理解・家族の心理、かかわり支援の理解・障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支 個		24		・医療との連携とリ	ハビリテーション			個人	
26 ・老化に伴うこころとからだの変化と日常 個 27 老化の理解②		25 l'		・介護職の安全				個人	
27 ・高齢者の健康 個 28 認知症の理解① ・認知症を取り巻く状況 ・医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 個 29 認知症の理解② ・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ・家族への支援 個 30 障がいの理解 ・障がいの基礎的理解・家族の心理、かかわり支援の理解・障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支 個	老化の理	26	老化の理解①	・老化に伴うこころと	こからだの変化と日常	Í		個人	
28 ・医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	老化の現	27	老化の理解②	・高齢者の健康				個人	
29 ・家族への支援 ・障がいの基礎的理解・家族の心理、かかわり支援の理解・障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支 個	認知症の	28	認知症の理解①			建康管理		個人	
┃ 30 ┃ です。	認知症の	29	認知症の理解②		ろとからだの変化と日	3常生活		個人	
1次寺の本派的知識	障がいの	30	障がいの理解				りり支	個人	
期末 期末試験60点以上で合格 筆記試験 60% 受講態度 試験 評価方法	期末試	1212	期末試験60点以上で合格	評価方法	筆記試験	60%	受講態度		40%

【教科書】

【介護福祉士初任者研修テキスト】第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版 (中央法規出版)

【参考書】

なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習: 次回授業内容分のテキスト黙読 復習:授業内容の復習、疑問点の整理

【本講義に関しての質問先】学科教員

【質問方法】

		【科目名]		 【担当教員】			【科目責任者】
					渡邉みどり			
	1	↑護総合(4	1/4)					渡邉
	【対象学科		【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】		形態】	【単位】
	際日本語:		1	前期	15(30)	講	義	1
【授業の	の概要・目	的】						
対人援	もまュニ	ケーション	vの実践ができる。					
	目標(到達 所に応じた	–	ミュニケーションスキ	テルを活用できる。				して得られる力】 発信力 傾聴力 柔軟性 青況把握力 規律性
【履修」	上の注意】			主体的に	受業に参加しましょう	,	!	
回数	授美	業のテーマ	7(担当教員)	授業の)内容·目標(使用教	(材等)		授業方法
1	オリエンテ	ーション		前回の対人援助コ	ミュニケーションの復	習		グループ
2	対人援助	コミュニケ	ーションの実践①	出会いの際のコミュ	∟ニケーションが実践	できる。		グループ
3	対人援助	コミュニケ	ーションの実践②	外出する場面を想象	定したコミュニケーシ	ョンを図る	らことがで	グループ
4	対人援助	コミュニケ	ーションの実践③	最近の話題につい る。	てコミュニケーション	を図ること	こができ	グループ
5	対人援助	コミュニケ	ーションの実践④	買い物する場面を想できる。	想定したコミュニケー	·ションを図	図ることが	グループ
6	対人援助	コミュニケ	ーションの実践⑤	話題の映画についる。	てコミュニケーション	を図ること	<u>:</u> ができ	グループ
7	対人援助	コミュニケ	ーションの実践⑥	体調がよくない人に	ニコミュニケーションを	図ること	ができる。	グループ
8	対人援助	コミュニケ	ーションの実践⑦	拒否をする人に適り る。	切なコミュニケーショ	ンを図るこ	ことができ	グループ
9	対人援助	コミュニケ	ーションの実践⑧	帰りたいという人に できる。	適切なコミュニケー	ションを図	ることが	グループ
10	対人援助	コミュニケ	ーションの実践⑨	早く食べる人に対しることができる。	て注意を促したコミ	ュニケーシ	/ョンを図	グループ
11	対人援助	コミュニケ	ーションの実践⑩	好きな音楽についる。	てコミュニケーションを	を図ること	ができ	グループ
12	対人援助	コミュニケ	ーションの実践⑪	作業をお願いする <i>が</i> きる。	こめのコミュニケーシ	タンを図る	ることがで	グループ
13	対人援助	コミュニケ	ーションの実践⑫	電話で待ち合わせの	の時間を決めること	ができる。		グループ
14	対人援助	コミュニケ	ーションの実践⑬		ケーションを図ること		-	グループ
15	振り返りを行い、この字習を通して時と場合に応じたコミュ 15 まとめ ニケーションスキルを活用し、他者とのコミュニケーション の重要性が理解できる。					グループ		
期末 試験	期末試験	レポートの	 D提出	評価方法	課題の達成度	60%	受講	態度 40%
【教	〈科書】	資料等を	配布する					
	行音』		じて教員から指示し	ンます。 				
	計別に必要			Fr	I.w. n			
【本講	養に関しての	D質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて			

【科目名	1		【科目責任者】		
介護総合演習	!(1/6)		渡邉		
月 设秘 口 供 日	(1/0)				波 登
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	60(120)	演習·実習	4

介護職員初任者研修課程のカリキュラムを通し、介護従事者として必要な知識・技術を学ぶ。

【学習目標(到達目標)】

- ①認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解できる。 ②障がいの概念とICF、障がい福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解できる。
- ③介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの 提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- ④尊厳を保持し、自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら生活を支える介護を理解できる。

【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 生活援助技術

心身機能と構造の理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の		授業方法		
1	介護におけるコミュニケーション技術①	・介護におけるコミュ	ュニケーション		個人	
2	介護におけるコミュニケーション技術②	・介護におけるチー	ムのコミュニケーション		個人	
3	こころとからだのしくみと生活支援技術 (基礎知識の学習①)	・介護の基本的なオ・介護に関するここ	うえ方 ろのしくみの基礎的理解		個人	
4	こころとからだのしくみと生活支援技術 (基礎知識の学習②)		・介護の基本的な考え方 ・介護に関するこころのしくみの基礎的理解			
5	こころとからだのしくみと生活支援技術 (基礎知識の学習③)	・介護の基本的な表・介護に関するから	個人			
6	こころとからだのしくみと生活支援技術 (基礎知識の学習④)	・介護の基本的なオ・介護に関するから	個人			
7	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習①)	・生活と家事①			個人	
8	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習②)	・生活と家事②	個人			
9	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習③)	・快適な居住環境割		個人		
10	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習④)	・快適な居住環境素	隆備と介護②		個人	
11	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習⑤)	・整容に関連したこ護①	ころとからだのしくみと自立に	向けた介	個人	
12	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習⑥)	・整容に関連したこ護②	ころとからだのしくみと自立に	向けた介	個人	
13	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習⑦)	・移動・移乗に関連けた介護①	したこころとからだのしくみと目	自立に向	個人	
14	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習®)	・移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護②			個人	
15	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習⑨)	・食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護①			個人	
期末 試験	期末試験60点以上で合格	評価方法	筆記試験 60%	受講	態度	40%
7 +/L	【介護福祉士初任者研修テキ	「スト】第1巻 介護の	しごとの基礎 第3版(中央法語	規出版)		

【教科書】

【介護福祉士初任者研修テキスト】第1巻 介護のしごとの基礎 第3版 (中央法規出版)

【介護福祉士初任者研修テキスト】第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版 (中央法規出版)

【参考書】

なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習:次回授業内容分のテキスト黙読 復習:授業内容の復習、疑問点の整理

【本講義に関しての質問先】学科教員

【質問方法】

【科目名】 【担当教員】			【科目責任者】			
介護総合演習(2/6) 渡邉みどり			渡邉			
月 设 花 口 供 白	(2/0)				次 连	
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
介護職員初任者研修科通信課程	1	前期	60(120)	演習·実習	4	

介護職員初任者研修課程のカリキュラムを通し、介護従事者として必要な知識・技術を学ぶ。

【学習目標(到達目標)】

- ①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの 提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- ②尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の 在宅・地域等での生活を支える介護を理解できる。

③研修全体を振り返り、学んだことの再確認と、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題が認識できる。

【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 生活援助技術

心身機能と構造の理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
16	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習⑩)	・食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護②	個人
17	(生石文援技術の子自動) こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習①)	・入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護①	個人
18	(生活文援技術の子自位) こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習位)	・入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護②	個人
19	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習(3))	・排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護①	個人
20	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習(4))	・排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護②	個人
21	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習⑮)	・睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	個人
22	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習®)	・睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護②	個人
23	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術の学習①)	・死ぬ行く人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	個人
24	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術演習①)	・介護過程の基礎的理解・総合生活支援技術演習	個人
25	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術演習②)	・介護過程の基礎的理解・総合生活支援技術演習	個人
26	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術演習③)	・介護過程の基礎的理解・総合生活支援技術演習	個人
27	こころとからだのしくみと生活支援技術 (生活支援技術演習④)	・介護過程の基礎的理解・総合生活支援技術演習	個人
28	振り返り①	-振り返り	個人
29	振り返り②	・就業への備えと研修修了後における継続的な研修	個人
30	修了評価	・修了評価	個人
期末試験	期末試験60点以上で合格	評価方法	態度 40%
	【介護福祉士初任者研修テキ	-スト】第1巻 介護のしごとの基礎 第3版 (中央法規出版)	

【教科書】

【介護福祉士初任者研修テキスト】第1巻 介護のしごとの基礎 第3版 (中央法規出版) 【介護福祉士初任者研修テキスト】第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版 (中央法規出版)

【参考書】

なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習:次回授業内容分のテキスト黙読 復習:授業内容の復習、疑問点の整理

【本講義に関しての質問先】学科教員

【質問方法】

	【科目名]		【担当教員】			【科目責任者】
	介護総合演習			渡邉みどり			渡邉
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業	形態】	【単位】
玉	際日本語学科	1	前期	60(120)	=	習	4
	の概要・目的】 活用する福祉のテク	<i></i> ソロジーについて、	介護従事者として必	必要な知識・技術を習	得する。		
	目標(到達目標)】 職として基本的な知	哉・実技が実践でき	、対象者別に対応が	ができる。			して得られる力】 発信力 傾聴力 柔軟性 青況把握力 規律性
【履修.	上の注意】		主体的に	授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ	7(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)				授業方法
31	介護におけるコミュ	ニケーション復習	介護におけるコミュニケーションの重要性を理解した上で、介護職として対象者に応じた対応が実践できる。				個人
32	実技演習①		利用者と家族へのかかわり方を理解し、介護職としての対応方法が実践できる。				個人
33	実技演習②		自分自身の心のを自己分析することで、成長するための 気づきを理解することができる。				個人
34	予防介護について行	复習	予防介護とはどのる。	ようなことを支援する	のかが理	解でき	グループ
35	実技演習①		予防介護をしている	る施設見学。			グループ
36	実技演習②		予防介護をしている	る施設見学。			グループ
37	障害の理解復習		障害に応じ、適切な	な支援方法が実践で	きる。		グループ
38	実技演習①		視覚障害者への身支度準備・外出介助が実践できる。			グループ	
39	実技演習②		聴覚障害者への身支度準備・外出介助が実践できる。				グループ
40	終末期についての	复習	死にゆく人、家族にできる。	死にゆく人、家族に対し、介護職としての支援方法が理解 できる。			
41	実技演習①			事例をもとに、介護と医療の終末期のケアが違うことを理解し、介護職として行うべき役割が理解できる。			

34	予防介護	について復習	予防介護とはどの。 る。 	らなことを支援するのか	が理解でき	グループ
35	実技演習	" ①	予防介護をしている	施設見学。		グループ
36	実技演習	12	予防介護をしている	施設見学。		グループ
37	障害の理	解復習	障害に応じ、適切な	グループ		
38	実技演習	1 ①	視覚障害者への身	グループ		
39	実技演習	12	聴覚障害者への身	グループ		
40	終末期に	ついての復習	死にゆく人、家族にできる。	援方法が理解	グループ	
41	実技演習	1 ①	事例をもとに、介護解し、介護職として	グループ		
42	実技演習	12	事例をもとに、介護 ができる	グループ		
43	介護総合	演習課題①	老人ホームで働く介	グループ		
44	介護総合	演習課題②	デイサービスの介語	護従事者との座談会を開 ^ん	催	グループ
45	まとめ		このコマで行った内容について、チームごとに振り返り、発表することができる。			グループ
期末 試験	筆記試験	AT.	評価方法	課題の達成度 60	0%	態度 40%
【教	(科書】	資料等を配布する			-	
7.4	++ + 1	必要に応じて教員から指示し	 、ます。			

|必要に応じて教員から指示します。 【参考書】

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う

【本講義に関しての質問先】担当教員 【質問方法】 教員室にて

		【科目名	1		 【担当教員】			【科目責任者】
	☆影	#	Z(1/6)		渡邉みどり			渡邉
		蒦総合演習 						
	【対象学科	-	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】		形態】	単位】
	際日本語		1	前期	45(90)	講	義	3
	の概要・目		者として必要な知識	・技術を習得する。				
現場で		- きる実践・	知識を自ら実践で					して得られる力】 発信力 傾聴力 柔軟性 青況把握力 規律性
【履修.	上の注意】			主体的に	受業に参加しましょう	5		
回数	授	業のテーマ	7(担当教員)	授業の)内容•目標(使用教	(材等)		授業方法
46	書類の管	理につい	τ	効率的な書類の管	理について理解でき	る。		グループ
47	環境整備	の理解と	実践①	居室等の清掃や範	囲について理解でき	₹る 。		グループ
48	環境整備	iの理解と	実践②	環境整備の重要性について理解し必要な環境を整えることができる。				グループ
49	外出支援	の計画と	実践①	対象者に合わせた外出支援の計画を立てることができる				グループ
50	外出支援	の計画と	実践②	計画した外出支援を実践することができる。				グループ
51	外出支援	の計画と	実践③	外出支援を振り返り、起こり得るリスクについて想定し対 策を考えることができる。				グループ
52	高齢者の	食事①		食事の形態を理解	し、対象者に合わせ	て提供が	できる。	グループ
53	高齢者の	食事②		高齢者に喜ぶおや	つを提供する。			グループ
54	高齢者の	食事③		とろみを使って、対 る。	象者に合わせたとろ	みの提供	ができ	グループ
55	高齢者の	食事④		行事食を計画し、摂	是供することができる	0		グループ
56	高齢者向	けの運動		現場でできる上半り	身を使った運動が提	供できる。		グループ
57	高齢者向	けの運動			身を使った運動が提			グループ
58		けの運動		計画することができ			重動をを	グループ
59	高齢者向	けの運動		高齢者向けの運動を提供することができる。				グループ
60	対象者に	合わせた	介護の実践①		対象者に合わせた環境整備、外出支援、身体介護についてアセスメントし介護目標を計画することができる。			
期末 試験	期末試験	シャルケートの		評価方法	課題の達成度	60%	受講	態度 40%
【教	科書】	資料等を	· ·					
	考書】		じて教員から指示	します。 				
	間外に必要		担当教員	【質問方法】	教員室にて			
▶₩₩	支に因して(// 貝미兀』	にコガ貝	【其问刀本】	が見土にし			

【科目名】 【担当教員】			【科目責任者】		
介護総合演習	물(5/6)		渡邉みどり		
		7 88=# n+ #n 3	[渡邉	
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	後期	15(30)	演習	1

介護に関心が持て、介護職としての基本的な知識や技術の言葉を学び、理解ができる。

【学習目標(到達目標)】

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 【本講義に関しての質問先】担当教員

- ①介護と福祉の言葉を学び、介護職としての役割や日本国の福祉制度について理解できる。
- ②介護を理解し、介護に必要な専門性についての知識や技術を習得し実践することができる。

【受講して得られる力】 考え抜く力 チームで働く力 柔軟性

							況把握力 規律性
履修_	上の注意】		主体的に打	受業に参加しましょ [.]	5		
回数	授	業のテーマ(担当教員)	授業の)内容•目標(使用教	(材等)		授業方法
1	職務の理	解・サービスの種類と内容	介護保険サービス、	日本の介護の考え	方を理解	できる。	個人
2	尊厳の保	持と自立支援	利用者の尊厳のあ	る暮らしを支援する	ことを理解	できる。	個人
3	介護の基	李	介護の専門性、地域	域包括ケアを理解で	きる。		個人
4	介護の基	<u>·</u>	安全性の確保、事故できる。	牧予防·安全対策、	感染症対策	後を理解	個人
5	介護と医	療の連携	介護保険制度の目	的、専門職の役割な	を理解でき	る。	個人
6	介護と医	療の連携	介護職員ができる。 を理解できる。	医療行為とやっては	いけない	医療行為	個人
7	介護にお	けるコミュニケーション	利用者、チームとのる。	コミュニケーションで	を学び、理	解でき	個人
8	老化の理	1 角4	高齢者のこころとかび、を理解できる。	らだの変化や病気	と特徴の言	葉を学	個人
9	老化の理	上 解	症状からみた病気。 言葉を学び、理解で		命者に多い	病気の	個人
10	認知症の	9理解	利用者中心・そのりび、理解することが		ケアを言	葉から学	個人
11	認知症の	理解	利用者中心・そのりび、理解することが		ケアを言	葉から学	個人
12	障害の理	上解	障害の意味と障害等することができる。	者福祉の考え方を訂	言葉から学	び、理解	個人
13	こころとた	いらだのしくみ	こころとからだのしくみ、生活と家事、居住環境整備、整容 の言葉を学び、生活を支える技術・知識を理解する。				個人
14	こころとた	いらだのしくみ	移動・移乗介助、食事、口腔ケアの言葉を学び、生活を支 える技術・知識を理解する。				個人
15	こころとた	いらだのしくみ	入浴・清潔保持、排 生活を支える技術・		対の言葉	を学び、	個人
期末 試験	筆記試験	ŧ	評価方法	筆記試験	60%	受講態	態度 40%
【教	《科書】	資料等を配布する。					
【参	考書】	必要に応じて教員から指示し	 します。				

【質問方法】

		【科目名]		 【担当教員】			【科目責任者】
介護総合演習(6/6) 渡邉みと			渡邉みどり			渡邉		
	【対象学科】		【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】		形態】	【単位】
	際日本語学 の概要・目的	• •	1	後期	60(120)	漢	習	4
		_						
介護初]任者研修課	!程で学	んだ知識・技術の「	中でテーマを決めて ⁷	研究発表を行う			
①研究	①研究のテーマに沿って、PCDAサイクルのプロセスが実践できる。						して得られる力】 発信力 傾聴力 柔軟性 青況把握力 規律性	
【履修.	上の注意】			主体的に	授業に参加しましょう	5		Γ
回数	授業	のテーマ	?(担当教員)	授業	の内容・目標(使用教	(材等)		授業方法
16	介護に関す	-る研究。	とは	介護に関する研究	こがなぜ必要なのか理	里解できる	0	グループ
17	研究テーマ	'の設定			iの中から研究テーマ てることができる。	を選出し、	その	グループ
18	研究の趣旨	盲目的•ā	开究方法	研究の趣旨目的の	研究の趣旨目的の立案と研究方法の選定ができる。			グループ
19 調査方法				研究方法に基づいて、調査する内容が選定できる。			グループ	
20 調査準備				調査に必要な書業	調査に必要な書類が準備できる。			グループ
21	21 調査開始			調査が行える準備	ができ、調査開始が	できる。		グループ
22	進捗状況σ)確認①		これまでの進捗を クにまとめることか	振り返り、行った研究 [、] できる。	2経過につ	いてワー	グループ
23	進捗状況 <i>σ</i>)確認②		これまでの進捗を クにまとめることか	振り返り、行った研究 「できる。	2経過につ	いてワー	グループ
24	調査集計			調査した結果を集	計することができる。			グループ
25	分析·考察	・課題の	選出	テーマの仮説に沿 の抽出ができる。	つて、調査結果を基	に分析・考	察∙課題	グループ
26	研究報告書	書の作成	1	報告する項目に沿きる。	汁って、研究報告書の	作成する	ことがで	グループ
27	研究報告書	書の作成	2	報告する項目に沿きる。	汁って、研究報告書の	作成する	ことがで	グループ
28	研究報告書	の作成	3	報告する項目に沿きる。	かて、研究報告書の	作成する	ことがで	グループ
29	研究発表会	第1部	3	グループごとに研	究発表することができ	きる。		グループ
30	30 研究発表会 第2部 まとめ グループごとに研究発表することができ、これまでの研究 についての振り返りができる。			での研究	グループ			
期末 試験	期末試験レ			評価方法	課題の達成度	60%	受講	態度 40%
【教	(科書】	ì護職員	初任者研修テキス	ト 第1·2版 				
	【参考書】 必要に応じて教員から指示します。							
				1	ンの事例の検索を行う	<u> </u>		
【个講	義に関しての	貝问尤】	担ヨ钬貝	【質問方法】	教員室にて			

	【科目名]		【科目責任者】		
	やさしい日本語(1/6)					
						進藤
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
	国際日本語学科	1	通年	90(180)	講義∙演習	6

日常生活の様々な場面で使われている文法を学び、会話やスピーチ、読解の中の文法項目になじみ、日本語能力試験 (JLPT)N3に合格できる日本語能力を身に着ける。

OLF INSICE 位 COSTABILITY (175)	
【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①文法を復習しながら、運用力を身に着ける。	運用力
②自然な日本語の会話テクニックを身に着ける。	読解力
③情報を聞き取り、自分の意見や考えを述べることができる。	聴解力

記述力

【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること 授業のテーマ(担当教員) 回数 授業の内容・目標(使用教材等) 授業方法 学習を通して、どのように学ぶのか、到達目標を理解する オリエンテーション 個人 プレースメントテスト等日本語能力をチェック 学習を通して、どのように学ぶのか、到達目標を理解する 初級 I 総復習 個人 2 プレースメントテスト等日本語能力をチェック 学習を通して、どのように学ぶのか、到達目標を理解する 初級Ⅱ 総復習 個人 3 プレースメントテスト等日本語能力をチェック 初級 作文 初級レベル 作文の総復習 個人 初級 聴解 5 初級レベル 聴解の総復習 個人 6 初級 漢字 初級レベル 漢字の総復習 個人 7 第1課 音楽と音の効果1 話しましょう・本文・言葉を確かめよう・内容を確かめよう 個人 第1課 音楽と音の効果2 学習項目・学習項目の練習・チェックシート・聴解タスクシート 個人 8 第1課 音楽と音の効果3 個人 作文作成・作文発表・討論・プラスアルファ「形容詞の名詞化」 第1課 音楽と音の効果4 漢字練習・読み練習・本文ルビ無しで読む 個人 第2課 いい数字・悪い数字1 個人 11 話しましょう・本文・言葉を確かめよう・内容を確かめよう 学習項目・学習項目の練習「数字」について読む・聞く・チェック 個人 |第2課 いい数字・悪い数字2 12 シート・聴解タスクシート 第2課 いい数字・悪い数字3 作文・作文発表・討論・プラスアルファ「数字のある熟語」 個人 13 第2課 いい数字・悪い数字4 漢字練習・読み練習・本文ルビ無しで読む 個人 14 個人 |第3課 「面白い」日本1 話しましょう・本文・言葉を確かめよう・内容を確かめよう 筆記試験 期末 実施しない 評価方法 試験 受講態度 TRY!日本語能力試験N3 文法から伸ばす日本語 【教科書】 なし 【参考書】

教員室にて

【質問方法】

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】自己学習、復習することが望ましい

【本講義に関しての質問先】担当教員

【科目名】			【科目責任者】		
やさしい日本語(2/6)		進藤智佳子			進藤
つるしい日本語	i亩(Z/ 0 <i>)</i>				進膝
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	演習·演習	6

日常生活の様々な場面で使われている文法を学び、会話やスピーチ、読解の中の文法項目になじみ、日本語能力試験 (JLPT)N3に合格できる日本語能力を身に着ける。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①文法を復習しながら、運用力を身に着ける。	運用力
②自然な日本語の会話テクニックを身に着ける。	読解力
③情報を聞き取り、自分の意見や考えを述べることができる。	聴解力
	記述力

【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること							
回数	授	業のテーマ(担当教員)	授業の)内容·目標(使用教材等)		授業方法	
16	親しい	人との会話:水泳大会(1)	個人的なことにつし ができる。	個人的なことについて、確認しながら、友だちとおしゃべりができる。			
17	親しい	へ人との会話:水泳大会(2)	個人的なことについ しゃべりができる。	固人的なことについて、意見や感想を交えて、友だちとお しゃべりができる。			
18		まとめの問題	文法形式の判断、文 N3の日本語能力を身	の組み立て、文章の文法、聴解の に着ける。	の問題で	個人	
19	手	≦作りハムのレシピ(1)	レシピを読んで、どん	な料理か理解できる。		個人	
20	手	≦作りハムのレシピ(2)	レシピを読んで、料	理の手順や注意が理解できる	3.	個人	
21		まとめの問題	文法形式の判断、文 N3の日本語能力を身	の組み立て、文章の文法、聴解の に着ける。	の問題で	個人	
22	スヒ	ピーチ:里山について(1)	環境問題など、あるができ、自分の意見	らテーマについての発表で、問 見が言える。	題提起	個人	
23	スヒ	ピーチ:里山について(2)		環境問題など、あるテーマについて具定例から結論まで 話し、全体としてまとまった発表ができる。			
24		まとめの問題		文法形式の判断、文の組み立て、文章の文法、聴解の問題で N3の日本語能力を身に着ける。			
25	店員と	の会話・親しい人との会話 不動産屋で(1)	店員が説明するてい	ねいな表現を理解し、受け答えか	ができる 。	個人	
26	店員と	の会話・親しい人との会話 不動産屋で(2)	友だちと、最近の変化について話したり、強くアドバイスをしたり することができる。			個人	
27		まとめの問題	文法形式の判断、文の組み立て、文章の文法、聴解の問題で N3の日本語能力を身に着ける。			個人	
28	面接	での会話:就職の面接(1)	初対面の人に敬意を示す基本的な表現を使って、あいさつや受 け答えができる。			個人	
29	面接	での会話:就職の面接(2)	初対面の人に敬意を け答えができる。	示す基本的な表現を使って、あい	いさつや受	個人	
30		まとめの問題	文法形式の判断、文 N3の日本語能力を身	の組み立て、文章の文法、聴解6 に着ける。	の問題で	個人	
期末 試験		実施しない	評価方法	筆記試験 受講態度			
【教和	科書】	TRY!日本語能力試験N3	・ 文法から伸ばす日本	語	•		
【参	考書】	なし					
【授業時間	間外に必要	 な学習の具体的内容 自己学習	3、復習することが望	ましい			
【本講義	に関して	の質問先】担当教員	【質問方法】	教員室にて			

【科目名]		【科目責任者】		
やさしい日本語(3/6)			進藤		
つさしい日本語(3/6)					连脉
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	講義·演習	6

【本講義に関しての質問先】担当教員

語彙を増やし、多様な文章の読み書きができる。読解力を向上し、一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。

【学習目標(到達目標)】【受講して得られる力】①JLPTN2、N3レベルの文型・表現・語彙の運用力を身に着ける。運用力②JLPTN2、N3レベルの自然な日本語の会話テクニックを身に着ける。読解力③JLPTN2、N3レベルの文章の読み書き、読解力をを身に着ける。聴解力記述力

【履修_	【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業 <i>0</i> .)内容・目標(使用教材等)	授業方法				
31	親しい人との会話:ゆきの選択(1)	将来の展望についきる。	て、自分の意見を強く主張することがで	個人				
32	親しい人との会話:ゆきの選択(1)	身近な人について、 る。	身近な人について、やや批判的に評価を言うことができ る。					
33	まとめの問題	文法形式の判断、文(N3の日本語能力を身	の組み立て、文章の文法、聴解の問題で に着ける。	個人				
34	親しい人との会話: 友だちのお見舞い (1)	困った状況とそのとき 現したりすることがで	の心情について、具体的に説明したり、表 きる。	個人				
35	親しい人との会話: 友だちのお見舞い (2)	困った状況とそのとき 現したりすることがで	の心情について、具体的に説明したり、表 きる。	個人				
36	まとめの問題	文法形式の判断、文(N3の日本語能力を身	の組み立て、文章の文法、聴解の問題で に着ける。	個人				
37	第1課 音楽と音の効果1	話しましょう・本文・言	葉を確かめよう・内容を確かめよう	個人				
38	第1課 音楽と音の効果2	学習項目·学習項目6	学習項目・学習項目の練習・チェックシート・聴解タスクシート					
39	第1課 音楽と音の効果3	作文作成·作文発表·	作文作成・作文発表・討論・プラスアルファ「形容詞の名詞化」					
40	第1課 音楽と音の効果4	漢字練習・読み練習・	個人					
41	第2課 いい数字・悪い数字1	話しましょう・本文・言	個人					
42	第2課 いい数字・悪い数字2	学習項目・学習項目のシート・聴解タスクシー	個人					
43	第2課 いい数字・悪い数字3	作文·作文発表·討論	・プラスアルファ「数字のある熟語」	個人				
44	第2課 いい数字・悪い数字4	漢字練習・読み練習・	ーーー 本文ルビ無しで読む	個人				
45	第3課「面白い」日本1	話しましょう・本文・言	葉を確かめよう・内容を確かめよう	個人				
期末 試験	筆記試験	筆記試験 50% レポート 評価方法 受講態度 50%						
【教	TRY!日本語能力試験N3、N	N2 文法から伸ばす	日本語					
【参	【参考書】							
【授業時	 授業時間外に必要な学習の具体的内容] 自己学習、復習することが望ましい							

【質問方法】

【科目名]		【科目責任者】		
やさしい日本語(4/6)			進藤		
					连 膝
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	講義·演習	6

【本講義に関しての質問先】担当教員

語彙を増やし、多様な文章の読み書きができる。読解力を向上し、一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。

【学習目標(到達目標)】【受講して得られる力】①JLPTN3レベルの文型・表現・語彙の運用力を身に着ける。運用力②JLPTN3レベルの自然な日本語の会話テクニックを身に着ける。読解力③JLPTN3レベルの文章の読み書き、読解力をを身に着ける。聴解力記述力

【履修_	【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること						
回数	授	業のテーマ(担当教員)	授業の)内容・目標(使用教材等)	授業方	法	
16	第3課「	面白い」日本2	学習項目·学習項目(学習項目・学習項目の練習・チェックシート・聴解タスクシート			
17	第3課「	面白い」日本3	作文作成·作文発表·	討論・プラスアルファ「形容詞の名	名詞化」 個人		
18	第3課「	面白い」日本4	漢字練習・読み練習・	本文ルビ無しで読む	個人		
19	第4課〈	(しゃみ1、2	話しましょう・本文・言	葉を確かめよう・内容を確かめよ	う 個人		
20	第4課〈	(しゃみ3、4	学習項目·学習項目(D練習・チェックシート・聴解タスク	プシート 個人		
21	第5課 和	仏の町1	話しましょう・本文・言	葉を確かめよう・内容を確かめよ	う 個人		
22	第5課 和	仏の町2	学習項目・学習項目のシート聴解タスクシー	D練習「数字」について読む・聞く ト	・チェック 個人		
23	第5課 和	仏の町3	作文·作文発表·討論	售」 個人			
24	第5課 和	仏の町4	漢字練習・読み練習・	個人			
25	第6課 こ ない!1	この日に食べなきゃ、意味が	話しましょう・本文・言	う 個人			
26	第6課 こ ない!2	この日に食べなきゃ、意味が	学習項目・学習項目のシート聴解タスクシー	・チェック 個人			
27	第6課 こ ない!3、	-の口に良べなさや、息味か	作文・作文発表・討論・ブラスアルファ「味を表す言葉・食事の言葉」 葉」 漢字練習・読み練習・本文ルビ無しで読む				
28	第7課 お	お相撲さんの世界1		葉を確かめよう・内容を確かめよ	う 個人		
29	第7課 お	お相撲さんの世界2	学習項目・学習項目のシート聴解タスクシー	D練習「数字」について読む・聞く ト	・チェック 個人		
30	第7課 お	お相撲さんの世界3、4	作文・作文発表・討論 葉」 漢字練習・読み練習・	・ブラスアルファ「自己アビールに 本文ルビ無しで読む	-関する言 個人		
期末 試験	実施しな	l,	第記試験 レポート 評価方法 受講態度				
【教	科書】	中級を学ぼう 日本語の文型	と表現56 中級前期	第2版			
【参	【参考書】なし						
【授業時	間外に必要	・ 要な学習の具体的内容】自己学習	、復習することが望	ましい			

教員室にて

【質問方法】

【科目名]		【科目責任者】		
やさしい日本語(5/6)			進藤		
(3/6)					连脉
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	講義·演習	6

【本講義に関しての質問先】担当教員

語彙を増やし、多様な文章の読み書きができる。読解力を向上し、一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。

【学習目標(到達目標)】【受講して得られる力】①JLPTN2レベルの文型・表現・語彙の運用力を身に着ける。運用力②JLPTN2レベルの自然な日本語の会話テクニックを身に着ける。読解力③JLPTN2レベルの文章の読み書き、読解力をを身に着ける。聴解力記述力

【履修_	上の注意】	シラバスと併せ	せて、「学習活動」「単	位認定」に関して、学生便覧	を確認する	こと
回数	授	業のテーマ(担当教員)	授業 <i>0</i>)内容·目標(使用教材等)		授業方法
21	第1課 1	5 1	扉のページ・キーワー よう	・ド・本文・言葉を確かめよう・内容	Fを確かめ	個人
32	第1課 1	 至2	学習項目・学習項目の練習			個人
33	第1課 1	当 3	聴解1•2			個人
34	第1課 色4		作文・プラスアルファ・	関連読み物		個人
35	まとめ・扱	長り返り	第1課を復習し、わか	らないところを理解する		個人
36	第2課 :	ューモア・ジョーク1	扉のページ・キーワー よう	・ド・本文・言葉を確かめよう・内容	序を確かめ	個人
37	第2課 ユーモア・ジョーク2		学習項目·学習項目(D練習		個人
38	第2課 ユーモア・ジョーク3		聴解1・2			個人
39	第2課 ユーモア・ジョーク4		作文・プラスアルファ・関連読み物			個人
40	まとめ・扱	長り返り	第2課を復習し、わからないところを理解する			個人
41	第3課 #	制服1	扉のページ・キーワード・本文・言葉を確かめよう・内容を確かめ よう			個人
42	第3課 #	制服2	学習項目・学習項目の練習			個人
43	第3課 #	制服3	聴解1・2			個人
44	第3課 #	制服4	作文・プラスアルファ・	関連読み物		個人
45	まとめ・扱	長り返り	第3課を復習し、わか	らないところを理解する		個人
期末 試験			筆記試験 レオ評価方法 受講態度		レポ-	
【教	科書】	中級を学ぼう 日本語の文型	と表現82 中級中期			
【参	考書】	なし				
【授業時	間外に必要	要な学習の具体的内容】自己学習	、復習することが望	ましい		

教員室にて

【質問方法】

【科目名]	【担当教員】			【科目責任者】
やさしい日本語(6/6)		進藤 智佳子			進藤
(*************************************	id(0/0)				進旅
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年 90(180) 講義・演習		6	

【本講義に関しての質問先】担当教員

語彙を増やし、多様な文章の読み書きができる。読解力を向上し、一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。

【学習目標(到達目標)】【受講して得られる力】①JLPTN2レベルの文型・表現・語彙の運用力を身に着ける。運用力②JLPTN2レベルの自然な日本語の会話テクニックを身に着ける。読解力③JLPTN2レベルの文章の読み書き、読解力をを身に着ける。聴解力記述力

【履修.	上の注意】	シラバスと併・	せて、「学習活動」「単	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ること
回数	授	業のテーマ(担当教員)	授業の)内容·目標(使用教材等)	授業方法
46	第4課	算数1	扉のページ・キーワー よう	-ド・本文・言葉を確かめよう・内容を確かめ	個人
47	第4課	算数2	学習項目•学習項目(個人	
48	第4課:	算数3	聴解1-2		個人
49	第4課	算数4	作文・プラスアルファ	関連読み物	個人
50	まとめ・技	振り返り	第1課を復習し、わか	らないところを理解する	個人
51	第5課	遊びと運動1	扉のページ・キーワー よう	-ド・本文・言葉を確かめよう・内容を確かめ	個人
52	第5課	遊びと運動2	学習項目•学習項目(か練習	個人
53	3 第5課 遊びと運動3		聴解1-2	個人	
54	第5課 遊びと運動4		作文・プラスアルファ	個人	
55	まとめ・技	振り返り	第5課を復習し、わか	個人	
56	第6課		扉のページ・キーワー よう	個人	
57	第6課	お金2	学習項目·学習項目(の練習	個人
58	第6課	お金3	聴解1-2		個人
59	第6課		作文・プラスアルファ	関連読み物	個人
60	まとめ・技	振り返り	第6課を復習し、わか	らないところを理解する	個人
期末 試験					² −ト
【教	(科書)	中級を学ぼう 日本語の文型	型と表現82 中級中期	月	
【参	考書】	なし			
【授業時	間外に必要		習、復習することが望	ましい	

教員室にて

【質問方法】

【科目名	1		【科目責任者】		
1411	<u> </u>	【担当教員】			【竹口貝讧扫】
日本語演	<u>3</u> 21		進藤 智佳子		
口个品供	8				進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	講義∙演習	6

【本講義に関しての質問先】担当教員

「文字・語彙」、「文法」を集中的に学習することで、JLPTN3、N4レベルの日本語能力を身に着ける。

【学習目標(到達目標)】
①文字・語彙・文法の問題を集中的に解くことで、問題の解き方を身に着ける。
②実力を知り、繰り返し学ぶことで着実に日本語能力を身に着ける。
③解答、解説をすることで、間違えた問題は間違えない力を身に着けることができる。
聴解力記述力

 【履修	 Lの注意】	シラバスと併	サイ「学習活動」単	単位認定」に関して、学生便覧	 を確認す <i>る</i>	<u></u> と
回数	_		T	- 位配足引き関ひて、子工反発。)内容・目標(使用教材等)	C HEDD > G	/
1	模擬テス		模擬テストにチャレ	ンジ!解答・解説で復習をし、 できる日本語力を身に着ける。		個人
2	模擬テス	ト採点・解説		ンジ!解答・解説で復習をし、 できる日本語力を身に着ける		個人
3	総まとめ	ポイント1、2	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N3、 を身に着ける。	, N4に合	個人
4	総まとめ	ポイント3、4	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N3、 を身に着ける。	, N4に合	個人
5	総まとめ	ポイント5、6	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N3、 を身に着ける。	N4に合	個人
6	総まとめ	ポイント7、8	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N3、 を身に着ける。	N4に合	個人
7	総まとめ	ポイント9、10	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N3、 を身に着ける。	N4に合	個人
8	総まとめ	ポイント11、12	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N3、 を身に着ける。	N4に合	個人
9	総まとめ	ポイント13、14	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N3、 を身に着ける。	N4に合	個人
10	総まとめ	ポイント15、16	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N3、 を身に着ける。	N4に合	個人
11	総まとめ	ポイント17、18	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N3、 を身に着ける。	N4に合	個人
12	総まとめ	ポイント19、20	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N3、 を身に着ける。	N4に合	個人
13	模擬テス	٢		ンジ!解答・解説で復習をし、 できる日本語力を身に着ける		個人
14	模擬テス	٢		ンジ!解答・解説で復習をし、 できる日本語力を身に着ける		個人
15	模擬テス	٢		ンジ!解答・解説で復習をし、 できる日本語力を身に着ける		個人
期末 試験	実施しなり	L)	評価方法	筆記試験 受講態度	レポ	—
【教	科書】	資料等を配布する				
【参	考書】	なし				
授業時	間外に必要	<u>□</u> な学習の具体的内容】 自己学				

【質問方法】

【科目名]		【科目責任者】			
日本語演習			進藤智佳子			
口个品次						
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
国際日本語学科	1	通年	90(180)	講義∙演習	6	

【本講義に関しての質問先】担当教員

「文字・語彙」、「文法」を集中的に学習することで、JLPTN2、N3レベルの日本語能力を身に着ける。

【学習目標(到達目標)】
①文字・語彙・文法の問題を集中的に解くことで、問題の解き方を身に着ける。
②実力を知り、繰り返し学ぶことで着実に日本語能力を身に着ける。
③解答、解説をすることで、間違えた問題は間違えない力を身に着けることができる。
聴解力記述力

【履修	 Lの注意】	シラバスと併	サイ「学習活動」単	単位認定」に関して、学生便覧	 を確認する	と
回数	_		T	つ内容・目標(使用教材等)	C HE DIO 7 6	/
1	模擬テス		模擬テストにチャレ	ンジ!解答·解説で復習をし、 できる日本語力を身に着ける。		個人
2	模擬テス	ト採点・解説		ンジ!解答・解説で復習をし、 できる日本語力を身に着ける。		個人
3	総まとめ	ポイント1、2	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N2、 を身に着ける。	, N3に合	個人
4	総まとめ	ポイント3、4	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N2、 を身に着ける。	, N3に合	個人
5	総まとめ	ポイント5、6	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N2、 を身に着ける。	, N3に合	個人
6	総まとめ	ポイント7、8	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N2、 を身に着ける。	, N3に合	個人
7	総まとめ	ポイント9、10	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N2、 を身に着ける。	N3に合	個人
8	総まとめ	ポイント11、12	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N2、 を身に着ける。	, N3に合	個人
9	総まとめ	ポイント13、14	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N2、 を身に着ける。	N3に合	個人
10	総まとめ	ポイント15、16	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N2、 を身に着ける。	, N3に合	個人
11	総まとめ	ポイント17、18	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N2、 を身に着ける。	, N3に合	個人
12	総まとめ	ポイント19、20	短期集中!総まとる格できる日本語力を	めで復習をし、日本語能力N2、 を身に着ける。	N3に合	個人
13	模擬テス	٢		ンジ!解答・解説で復習をし、 できる日本語力を身に着ける		個人
14	模擬テス	٢		ンジ!解答・解説で復習をし、 できる日本語力を身に着ける		個人
15	模擬テス	٢		ンジ!解答・解説で復習をし、 できる日本語力を身に着ける。		個人
期末 試験	実施しなり	L)	評価方法	筆記試験 受講態度	レポ	—
【教	科書】	資料等を配布する				
【参	考書】	なし				
授業時	間外に必要	<u>□</u> な学習の具体的内容】自己学		ましい		

【質問方法】

【科目名】			【科目責任者】		
やさしい日本語(6/6)		進藤 智佳子			進藤
べるしい日本語	亩(0/0)				连膝
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	演習·演習	6

【本講義に関しての質問先】担当教員

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】自己学習、復習することが望ましい

【質問方法】

教員室にて

「文字・語彙」、「文法」を集中的に学習することで、JLPTN3、2レベルの日本語能力を身に着ける。

【学習目標(到達目標)】 【受講して得られる力】

- ①文字・語彙・文法の問題を集中的に解くことで、問題の解き方を身に着ける。
- ②実力を知り、繰り返し学ぶことで着実に日本語能力を身に着ける。
- ③解答、解説をすることで、間違えた問題は間違えない力を身に着けることができる。

運用力 読解力 聴解力 記述力

履修	上の注意】	シラバスと住	 4せて、「学習活動 I「単	単位認定」に関して、学生便覧で ●位認定」に関して、学生便覧で	<u> </u> を確認するこ	۲
回数) 内容·目標(使用教材等)		· <u>·</u> 授業方法
16	模擬テス		模擬テストにチャレ	ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
17	模擬テス	卜第2回		ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
18	模擬テス	卜第3回		ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
19	模擬テス	卜第4回		ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
20	模擬テス	卜第5回		ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
21	模擬テス	卜第6回		ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
22	模擬テス	卜第7回		ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
23	模擬テス	卜第8回		ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
24	模擬テス	卜第9回		ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
25	模擬テス	卜第10回		ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
26	模擬テス	卜第11回		ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
27	模擬テス	卜第12回		ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
28	模擬テス	卜第13回		ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
29	模擬テス	卜第14回		ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
30	模擬テス	卜第15回		ンジ!解答・解説で復習をし、 きる日本語力を身に着ける。	日本語	個人
期末 試験	実施しない	۸,	評価方法	筆記試験 受講態度	レポー	· F
【教	科書】	資料等を配布する	•			
 【参	··考書】	なし				

日本語教師実践コース

	【科目名]	【担当教員】		-	【科目責任者】
	教育演習 I (1/6)		花城可武			進藤
	教 月 供白 1	(1/0)				
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科 1		通年	90(180)	演習·実習	6	

【本講義に関しての質問先】担当教員

日本語教授法を理解し、実践できる能力を身に付ける。

【学習目標(到達目標)】 【受講して得られる力】 ①留学生と共に学ぶことで、コミュニケーション能力を身に着けることができる。 運用力

②JLPTN3レベルの日本語を教える基礎知識を習得することができる。

③JLPTN3レベルの日本語を教えるポイントやスキルの実践能力を身につける。

読解力 聴解力 記述力

						配処刀
	上の注意】			位認定」に関して、学		
回数	授:	業のテーマ(担当教員)	授業の)内容•目標(使用教材	 等)	授業方法
1	オリエンラ	テーション	日本語授業の構成	や指導内容を確認する	3	個人
2	教育演習	│/ 語彙・文章表現1	文法、語彙の習得や 本語指導を理解する	ロ頭、文章表現能力の向	可上を目的と	じた日 個人
3	教育演習	·//聴解1	聴解ストラテジーの習 指導を理解する	'得や聴解能力の向上を	目的としたI	日本語 個人
4	教育演習	/作文作成1		章表現の方法や、作文技 的とした日本語指導を理		(文章 個人
5	教育演習	//読解1		「得や読解能力の向上を ・練習について理解する	目的としたり	日本語 個人
6	教育演習	//語彙・文章表現2	文法、語彙の習得や 本語指導を理解する	口頭、文章表現能力の向	可上を目的と	にた日 個人
7	教育演習	/	聴解ストラテジーの習 指導を理解する	¦得や聴解能力の向上を	目的とした	日本語 個人
8	教育演習	/作文作成2		章表現の方法や、作文打 的とした日本語指導を理		(文章 個人
9	教育演習	/読解2		「得や読解能力の向上を ・練習について理解する	目的としたり	日本語 個人
10	教育演習	//語彙·文章表現3	文法、語彙の習得や 本語指導を理解する	ロ頭、文章表現能力の向	可上を目的と	にた日 個人
11	教育演習	/- 聴解3	聴解ストラテジーの習 指導を理解する	¹ 得や聴解能力の向上を	目的としたり	日本語 個人
12	教育演習	/作文作成3		章表現の方法や、作文持 的とした日本語指導を理		(文章 個人
13	教育演習	//読解3		「得や読解能力の向上を ・練習について理解する	目的とした	日本語 個人
14	教育演習	//授業案作成	日本語の学習内容、 授業案を作成する。	指導方法を理解する。		個人
15	教育演習	//授業実践	日本語の学習内容、	指導方法を理解し、授業	を実践する	。 個人
期末 試験	授業案/村	莫擬授業	評価方法	課題の達成度 受講態度	50% 50%	
【教	科書】	中級を学ぼう 日本語の文型	型と表現56 中級前其	第2版		
【参	考書】	なし				
授業時	間外に必要	な学習の具体的内容】授業の理	異解について振り返り	シートを作成する		-
L =# A	÷1-001	の所明よりセンガニ	『 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	**		

【科目名]		【担当教員】	【科目責任者】	
教育演習 I	(2 /6)	花城可武			進藤
教育 供自 1	(2/0)				
【対象学科】 【学年】		【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科				6	

日本語教授法を理解し、実践できる能力を身に付ける。

【学習目標(到達目標)】

- ①留学生と共に学ぶことで、コミュニケーション能力を身に着けることができる。
- ②JLPTN3レベルの日本語を教える基礎知識を習得することができる。
- ③JLPTN3レベルの日本語を教えるポイントやスキルの実践能力を身につける。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】授業の理解について振り返りシートを作成する

【本講義に関しての質問先】担当教員

【受講して得られる力】

運用力 読解力

聴解力 記述力

【履修	上の注意】	シラバスと併+	ナで、「学習活動「単	位認定」に関して、学生	 ・便覧を確認する。	ـــــــــــــــــــــــــــــــــــــ
回数	_	業のテーマ(担当教員)	1)内容•目標(使用教材等		
16	教育演習	/語彙・文章表現5	文法、語彙の習得や 本語指導を理解する	口頭、文章表現能力の向_	上を目的とした日	個人
17	教育演習	/聴解5	聴解ストラテジーの習 指導を理解する	'得や聴解能力の向上を目	的とした日本語	個人
18	教育演習	/作文作成5		章表現の方法や、作文指導 的とした日本語指導を理解		個人
19	教育演習	/読解5		得や読解能力の向上を目 練習について理解する	的とした日本語	個人
20	教育演習	/授業案作成	日本語の学習内容、 授業案を作成する。	 指導方法を理解する。		個人
21	教育演習	/語彙•文章表現6	文法、語彙の習得や 本語指導を理解する	口頭、文章表現能力の向」	上を目的とした日	個人
22	教育演習	/聴解6	聴解ストラテジーの習 指導を理解する	得や聴解能力の向上を目	的とした日本語	個人
23	教育演習	/作文作成6		章表現の方法や、作文指導 的とした日本語指導を理解		個人
24	教育演習	/読解6	読解ストラテジーの習得や読解能力の向上を目的とした日本語 指導、漢字練習・読み練習について理解する			個人
25	教育演習	/授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人
26	語彙、文章	章表現演習7	文法、語彙の習得や口頭、文章表現能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
27	聴解演習	7	聴解ストラテジーの習 指導を理解する	'得や聴解能力の向上を目	的とした日本語	個人
28	作文作成	演習7	作文·作文発表·討論 葉」	・プラスアルファ「自己アピ	ールに関する言	個人
29	読解演習	7	漢字練習・読み練習・	本文ルビ無しで読む		個人
30	模擬授業		日本語教授法を活用	し模擬授業を実践する。		個人
期末 試験	模擬授業	案/模擬授業	評価方法	課題の達成度 受講態度	50% 50%	
【教	科書】	中級を学ぼう 日本語の文型	型と表現56 中級前期	月 第2版	•	
【参	考書】	なし				

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】	
教育演習 I	(2/6)		進藤			
教育與自 I	(3/0)					
【対象学科】 【学年】		【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
国際日本語学科	1	通年	90(180)	演習∙実習	6	

日本語教授法を理解し、実践できる能力を身に付ける。

【学習目標(到達目標)】

①日本語教授法の基礎力向上にプラスアルファする発信力が身に付く実践能力を身に付ける。

- ②JLPTN2レベル日本語教育の4つの技能(読む・書く・聞く・話す)を養成する教授法を身に付ける。
- ③JLPTN2レベルの日本語を教えるポイントやスキルの実践能力を身につける。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】授業の理解について振り返りシートを作成する

【本講義に関しての質問先】担当教員

【受講して得られる力】

運用力 読解力

聴解力 記述力

【履修」	上の注意】	シラバスと併 ⁺	 せて、「学習活動」「単	位認定」に関して、学	<u> </u> :生便覧を確認する。	
回数		業のテーマ(担当教員)	_	内容・目標(使用教材		
31	教育演習	/語彙・聴解・読解	語彙力、聴解力、読解	力を養成する日本語教	7授法を理解する	個人
32	教育演習	/発信力	意見陳述、説明文を ルファ「ディベート」に	を成する、作文・作文発 ついて理解する	表・討論・プラスア	個人
33	教育演習			得や読解能力の向上を 練習について理解する		個人
34	教育演習	/4技能の力	知識を意識化、活性化	につながる日本語教育	育を理解する	個人
35	教育演習	/授業案作成	日本語の学習内容、対 授業案を作成する。	指導方法を理解する。		個人
36	教育演習	∕語彙・聴解	聴解ストラテジーの習 指導を理解する	得や聴解能力の向上を	目的とした日本語	個人
37	教育演習	/発信力	意見陳述、説明文を ルファ「ディベート」に	を成する、作文・作文発 ついて理解する	表・討論・プラスア	個人
38	教育演習	/4技能の力	知識を意識化、活性化	につながる日本語教育	育を理解する	個人
39	教育演習	/語彙・聴解	聴解ストラテジーの習 指導を理解する	目的とした日本語	個人	
40	教育演習	/授業案作成	日本語の学習内容、対 授業案を作成する。		個人	
41	教育演習	/発信力	意見陳述、説明文を養 ルファ「ディベート」にで	を成する、作文・作文発 Oいて理解する	表・討論・プラスア	個人
42	教育演習	/4技能の力	知識を意識化、活性化	たにつながる日本語教育	育を理解する	個人
43	教育演習	/授業案作成	日本語の学習内容、持 授業案を作成する。			個人
44	教育演習	/授業案作成	日本語の学習内容、持 授業案を作成する。	指導方法を理解する。		個人
45	模擬授業		日本語教授法を活用	レ模擬授業を実践する。		個人
期末 試験	模擬授業		評価方法	課題の達成度 受講態度	50% 50%	
 【教	(科書)	中級を学ぼう 日本語の文型	世と表現82 中級中期			
【参	考書】	なし				

【科目名]		【担当教員】 花城可武 【回数(時間)】 【授業形能】		【担当教員】 【科目責任:		【科目責任者】
教育演習 [(A /G)		進藤				
教育 供自 1	(4/0)		進滕				
【対象学科】 【学年】		【開講時期】 【回数(時間)】 【授業形態】		【単位】			
国際日本語学科	1	通年			6		

日本語教授法を理解し、実践できる能力を身に付ける。

【学習目標(到達目標)】

なし

【本講義に関しての質問先】担当教員

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】授業の理解について振り返りシートを作成する

【参考書】

①留学生と共に学ぶことで、コミュニケーション能力を身に着けることができる。

- ②JLPTN2レベルの日本語を教える基礎知識を習得することができる。
- ③JLPTN2レベルの日本語を教えるポイントやスキルの実践能力を身につける。

【受講して得られる力】

運用力 読解力

聴解力 記述力

【层收	上の注意】	こ.二,ごつ 1./兴」	+ イ 「労羽江劫」「労	(仏羽中) 一朗! ナ 尚州原覧:	た変表すること
回数		プラハスと け り 業のテーマ(担当教員)	T	!位認定」に関して、学生便覧る ○内容・目標(使用教材等)	を確認すること 授業方法
46	教育演習	/語彙・聴解・読解		昇力を養成する日本語教授法を 理	理解する 個人
47	教育演習	/4技能の力	知識を意識化、活性化	とにつながる日本語教育を理解す	する 個人
48	教育演習	<i>/</i> 語彙▪聴解	聴解ストラテジーの習 指導を理解する	得や聴解能力の向上を目的とし	た日本語 個人
49	教育演習	/発信力	意見陳述、説明文を ルファ「ディベート」に	褎成する、作文・作文発表・討論・ ついて理解する	プラスア 個人
50	教育演習	/授業案作成	日本語の学習内容、 授業案を作成する。	指導方法を理解する。 	個人
51	教育演習	/4技能の力	知識を意識化、活性化	とにつながる日本語教育を理解す	する 個人
52	教育演習		聴解ストラテジーの習 指導を理解する	得や聴解能力の向上を目的とし	た日本語 個人
53	教育演習	/発信力	意見陳述、説明文を表 ルファ「ディベート」に	§成する、作文・作文発表・討論・ ついて理解する	プラスア 個人
54	教育演習	∕語彙・聴解・読解	語彙力、聴解力、読角	昇力を養成する日本語教授法を 理	理解する 個人
55	教育演習	/4技能の力	知識を意識化、活性化	とにつながる日本語教育を理解す	する 個人
56	教育演習		聴解ストラテジーの習 指導を理解する	得や聴解能力の向上を目的とし	た日本語 個人
57	教育演習	/発信力	意見陳述、説明文を表 ルファ「ディベート」に	褎成する、作文・作文発表・討論・ ついて理解する	プラスア 個人
58	模擬授業	案作成	日本語教授法を活用	し授業実践を体験する	個人
59	模擬授業	案作成	日本語教授法を活用	し授業実践を体験する	個人
60	模擬授業		日本語教授法を活用	し授業実践を体験する	個人
期末 試験	筆記試験		評価方法	課題の達成度 50% 受講態度 50%	·
【教	:科書】	中級を学ぼう 日本語の文型	と表現82 中級中期		
		<i>†</i> >1			

【科目名]		【担当教員】		【科目責任者】
教育演習 I	(5/6)		進藤		
	(3/0)				
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	演習·実習	6

日本語能力試験(JLPT)N3を取得するための日本語能力を習得する文字語彙、表現文法の教育能力を身に付ける。

【学習目標(到達目標)】

- ①文字・語彙・文法の問題を集中的に解くことで、問題の解き方を理解し、教育できる。
- ②日本語能力試験N3を取得するための日本語能力を理解することで、教育方法が理解できる。
- ③読解力、聴解力向上に必須の文字語彙、表現文法の教育方法が理解できる。

【受講して得られる力】

運用力

読解力 聴解力

記述力

7 - 1 - 1	>		W	/// 	W .1 1 			
【腹修 ₋ 回数	上の注意】 I _妈	シラハスとf 業のテーマ(担当教員)	并せて、「学習活動」「単 ────────────────────────────────────	単位認定」に関して、 ○内容・目標(使用す		を催認する	こと 授業方法	
61		/模擬テスト1	N3模擬テストを解さ 合格できる日本語	₹、解答・解説をする		PTN3/C	個人	
62	教育演習	'/模擬テスト2	N3模擬テストを解さ 合格できる日本語		ることで、JLI	PTN3/C	個人	
63	教育演習	'/模擬テスト3	N3模擬テストを解さ 合格できる日本語は		ることで、JLI	PTN3/C	個人	
64	教育演習	'/模擬テスト4	N3模擬テストを解さ 合格できる日本語		ることで、JLI	PTN3/C	個人	
65	教育演習	/模擬テスト5	N3模擬テストを解さ 合格できる日本語		ることで、JLI	PTN3/C	個人	
66	教育演習	1/模擬テスト6	N3模擬テストを解さ トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人	
67	教育演習	1/模擬テスト7	N3模擬テストを解さ トを理解する。	た、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人	
68	教育演習	1/模擬テスト8	N3模擬テストを解さ トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人	
69	教育演習	'/模擬テスト9	N3模擬テストを解さ トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人	
70	教育演習	'/模擬テスト10	N3模擬テストを解さ トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人	
71	教育演習	'/模擬テスト11	N3模擬テストを解さ トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人	
72	教育演習	'/模擬テスト12	N3模擬テストを解さ トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人	
73	教育演習	'/模擬テスト13	N3模擬テストを解さ トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人	
74	教育演習	'/模擬テスト14	N3模擬テストを解さ トを理解する。	・、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人	
75	総まとめ		初級・中級指導ポー	イントから日本語教	授法につい	てまとめ	個人	
期末 試験	レポート		評価方法	レポート 受講態度	30% 50%	課題の	達成度	2
【教	(科書】	資料等を配布する						
	考書】	なし						
		な学習の具体的内容】授業の						
本講	義に関して	の質問先】担当教員	【質問方法】	教員室にて				

【科目名】 教育演習 I (6/6)			【担当教員】		【科目責任者】
- - 数本定羽 T	(e /e)	花城可武			進藤
教 月 供白 1 、	(0/0)				
【対象学科】 【学年】		【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	演習·実習	6

日本語能力試験(JLPT)N2を取得するための日本語能力を習得する文字語彙、表現文法の教育能力を身に付ける。

【学習目標(到達目標)】

【本講義に関しての質問先】担当教員

- ①文字・語彙・文法の問題を集中的に解くことで、問題の解き方を理解し、教育できる。
- ②日本語能力試験N2を取得するための日本語能力を理解することで、教育方法が理解できる。
- ③読解力、聴解力向上に必須の文字語彙、表現文法の教育方法が理解できる。

【受講して得られる力】

運用力

読解力

聴解力 記述力

	上の注意】		スと併せて、「学習活動」「単	単位認定」に関して、	学生便覧を	確認する	
回数	授美	業のテーマ(担当教員)	授業の)内容・目標(使用教	(材等)		授業方法
76	教育演習	/模擬テスト1	N2模擬テストを解る 合格できる日本語	き、解答・解説をする 能力を理解する。	ことで、JLF	PTN2IC	個人
77	教育演習	/模擬テスト2	N2模擬テストを解る 合格できる日本語	き、解答・解説をする 能力を理解する。	ことで、JLF	PTN2/C	個人
78	教育演習	/模擬テスト3	N2模擬テストを解る 合格できる日本語的	き、解答・解説をする 能力を理解する。	ことで、JLF	PTN2IC	個人
79	教育演習	/模擬テスト4	N2模擬テストを解る 合格できる日本語的	き、解答・解説をする 能力を理解する。	ことで、JLF	PTN2IC	個人
80	教育演習	/模擬テスト5	N2模擬テストを解る 合格できる日本語	き、解答・解説をする 能力を理解する。	ことで、JLF	PTN2IC	個人
81	教育演習	/模擬テスト6	N2模擬テストを解る トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人
82	教育演習	/模擬テスト7	N2模擬テストを解る トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人
83	教育演習	/模擬テスト8	N2模擬テストを解る トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人
84	教育演習	/模擬テスト9	N2模擬テストを解る トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指導	導ポイン	個人
85	教育演習	/模擬テスト10	N2模擬テストを解る トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指導	導ポイン	個人
86	教育演習	/模擬テスト11	N2模擬テストを解る トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人
87	教育演習	/模擬テスト12	N2模擬テストを解る トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指導	導ポイン	個人
88	教育演習	/模擬テスト13	N2模擬テストを解る トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人
89	教育演習	/模擬テスト14	N2模擬テストを解る トを理解する。	き、復習の中で初級	・中級の指	導ポイン	個人
90	総まとめ		初級・中級指導ポー	イントから日本語教技	受法につい	てまとめ	個人
期末 試験	レポート		評価方法	レポート 受講態度	30% 50%	課題の	達成度
【教	科書】	資料等を配布する					
【参	考書】	なし					

【質問方法】

【科目名]	【担当教員】			【科目責任者】
教育演習 Ⅱ	(1 /2)		花城可武		進藤
教 月﹐供白 Ⅱ ¹	(1/3)				進滕
【対象学科】 【学年】		【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	45(90)	演習·実習	3

日本語教授法を理解し、N3レベルの授業が実践できる能力を身に付ける。

【学習目標(到達目標)】

①留学生と共に学び、日本語教授法と結びつけながら日本語教育を理解し、実践することができる。

②日本語を教える基礎知識を習得することができる。

③N3レベルの日本語を教えるポイントを理解し、実践能力を身につける。

【受講して得られる力】

応用力

思考力

指導力 実践力

		せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認す	T
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	教育演習/作文1	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。	個人
2	教育演習/作文2	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。	個人
3	まとめの問題	日本語の学習内容、指導方法を理解する。レポートを作成する。	個人
4	教育演習/ブログ1	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。	個人
5	教育演習/ブログ2	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。	個人
6	まとめの問題	日本語の学習内容、指導方法を理解する。レポートを作成する。	個人
7	教育演習/お知らせ1	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。	個人
8	教育演習/お知らせ2	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。	個人
9	まとめの問題	日本語の学習内容、指導方法を理解する。レポートを作成する。	個人
10	教育演習/会話1	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。	個人
11	教育演習/会話2	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。	個人
12	まとめの問題	日本語の学習内容、指導方法を理解する。レポートを作成する。	個人
13	教育演習/料理のレシピ1	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。	個人
14	教育演習/料理のレシピ2	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。	個人
15	まとめの問題	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。	
期末 試験	レポート	課題の達成度 20% レ7 評価方法 受講態度 50%	ポート 30 ⁹
【教	科書】 TRY!日本語能力試験N3	文法から伸ばす日本語	
【参	考書】なし		
	間外に必要な学習の具体的内容】レポート	、振り返りシート作成	
【本講義	[に関しての質問先] 担当教員	【質問方法】 教員室にて	

	【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
	教育演習 Ⅱ (2/3)		花城可武			進藤
						進滕
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
	国際日本語学科	1	通年	45(90)	演習·実習	3

日本語教授法を理解し、N3レベルの授業が実践できる能力を身に付ける。

【学習目標(到達目標)】

①留学生と共に学び、日本語教授法と結びつけながら日本語教育を理解し、実践することができる。

②日本語を教える基礎知識を習得することができる。

③N3レベルの日本語を教えるポイントを理解し、実践能力を身につける。

【受講して得られる力】

応用力

思考力

指導力 実践力

							夫歧刀	
【履修上	の注意】	シラバスと併	‡せて、「学習活動」「単	単位認定」に関して、学	生便覧	を確認する	らこと	
回数	授	業のテーマ(担当教員)	授業0)内容·目標(使用教	オ等)		授業方法	į
16	;	教育演習/スピーチ1	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と 点、授業の進め方について学ぶ。			と留意	個人	
17	教育演習/スピーチ2 留学生と共に学ぶ中で、 点、授業の進め方につい				学習指導	と留意	個人	
18		まとめの問題	日本語の学習内容、指導方法を理解する。レポートを作成す			作成する。	個人	
19		教育演習/会話1		留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。			個人	
20		教育演習/会話2	留学生と共に学ぶ 点、授業の進め方	中で、日本語教師の こついて学ぶ。	学習指導	と留意	個人	
21	まとめの問題		日本語の学習内容、	指導方法を理解する。し	パートを	作成する。	個人	
22	教	育演習/面接での会話1		留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。				
23	教育演習/面接での会話2 留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。				と留意	個人		
24		授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人		
25	教育演習/授業実践		日本語教授法を応用し、作成した授業案を実践する。			個人		
26	教育演習/授業実践		日本語教授法を応用し、作成した授業案を実践する。			個人		
27	授業案作成		日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人		
28	教育演習/授業実践		日本語教授法を応用し、作成した授業案を実践する。			ける。	個人	
29	教育演習/授業実践		日本語教授法を応用し、作成した授業案を実践する。			個人		
30	模擬授業作成した授業案で模擬授業を実践する。							
期末 試験		授業案/模擬授業	評価方法	課題の達成度 受講態度	30% 50%	レポ	<u>`</u> -	20
【教	TRY!日本語能力試験N3 又		文法から伸ばす日本	語				
【参考書】 なし								
授業時	間外に必要	要な学習の具体的内容】レポート	ト、振り返りシート作成					
本講義	に関して	の質問先】担当教員	【質問方法】	教員室にて				

	【科目名]	【担当教員】			【科目責任者】
	教育演習 Ⅱ (3/3)		花城可武			進藤
						進滕
	【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
Ī	国際日本語学科	1	通年	45(90)	演習·実習	3

日本語教授法を理解し、N2レベルの授業が実践できる能力を身に付ける。

【学習目標(到達目標)】

- ①留学生と共に学び、日本語教授法と結びつけながら日本語教育を理解し、実践することができる。
- ②日本語を教える基礎知識を習得することができる。

【本講義に関しての質問先】担当教員

③N3レベルの日本語を教えるポイントを理解し、実践能力を身につける。

【受講して得られる力】

応用力 思考力

指導力 実践力

【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること								
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法			
31	教育演習/お知らせを読む	留学生と共に学びながら、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。			個人			
32	授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人			
33	教育演習/スピーチ1	留学生と共に学びながら、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。			個人			
34	教育演習/スピーチ2		留学生と共に学びながら、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。					
35	授業案作成	日本語の学習内容、 授業案を作成する。	指導方法を理解する。		個人			
36	教育演習/説明を聞く	留学生と共に学びながら、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。			個人			
37	授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人			
38	教育演習/ニュースを聞く	留学生と共に学びながら、日本語教師の学習指導と留意 点、授業の進め方について学ぶ。			個人			
39	教育演習/授業実践	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人			
40	教育演習/授業実践	自分の困った状況が友だちに説明できる。			個人			
41	教育演習/授業実践	自分の困った状況が友だちに説明できる。 友だちの話に共感して励ますことができる。			個人			
42	授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人			
43	授業案作成	自分の困った状況が友だちに説明できる。 友だちの話に共感して励ますことができる。			個人			
44	授業案作成	自分の状況や決意したことを友達に話せる。			個人			
45	模擬授業	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人			
期末 試験	授業案/模擬授業	課題の達成度 50% 評価方法 受講態度 50%						
【教科書】 TRY!日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語								
【参	【参考書】							
【授業時	【授業時間外に必要な学習の具体的内容】レポート、振り返りシート作成							